感染症発生動向調査事業報告書

－平成２８年版－

山梨県感染症情報センター

目　　次

Ⅰ　事業概要
１　感染症発生動向調査事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２　対象感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
３　地域区分と定点医療機関数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

Ⅱ　患者発生状況
１　全数把握対象感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
２　定点把握対象感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
2-1 インフルエンザ定点から報告された感染症 ・・・・・・・・・・・・ 7
〇インフルエンザ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）
2-2 小児科定点から報告された感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
〇 ＲＳウイルス感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
〇 咽頭結膜熱 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
〇 Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
〇 感染性胃腸炎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
〇 水痘 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
〇 手足口病 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
〇 伝染性紅斑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
〇 突発性発しん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
〇 百日咳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
〇 ヘルパンギーナ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
〇 流行性耳下腺炎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
2-3 眼科定点から報告された感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
〇 急性出血性結膜炎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
〇 流行性角結膜炎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
2-4 性感染症定点から報告された感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
〇 性器クラミジア感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
〇 性器ヘルペスウイルス感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
〇 尖圭コンジローマ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
〇 淋菌感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
2-5 基幹定点から報告された感染症 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
〇 細菌性髄膜炎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
〇 無菌性髄膜炎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

○ マイコプラズマ肺炎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
○ クラミジア肺炎（オウム病を除く） ・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
○ 感染性胃腸炎（ロタウイルス）・・・・ ・・・・・・・・・・・・・・ 31
○ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症・・・・・・・・・ ・・・・・ 32
○ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症・・・・・・・・・・・・ ・・・・・・・33
○ 薬剤耐性緑膿菌感染症・・・・・・・・・・・・・・・・ ・・・・・・・ 34

Ⅲ 病原微生物検出状況
１ ウイルス検出状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
２ 細菌検出状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

Ⅳ 参考資料
１ 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・ 37
２ 全数把握対象感染症の報告数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
３ 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数 ・・・・・・・・・・・ 41
４ 平成 27 年と 28 年における定点当たり報告数の比較 ・・・・・・・・・・ 42
５ 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移 ・・・・・・・・・・・・ 43
６ 感染症発生動向調査の調査報告週対応表 ・・・・・・・・・・・・・・・ 44

Ⅰ　事業概要

1　感染症発生動向調査事業

本事業は昭和 56 年 7 月から 18 疾病を対象に開始され、システムのオンライン化や対象疾病等の充実・拡大がされ、運用されてきた。

平成 11 年 4 月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）施行により、感染症発生動向調査が感染症の発生及びまん延の防止を目的として感染症施策の一つとして位置づけられ、「感染症発生動向調査事業要綱」に基づき実施されている。

平成 19 年 4 月の感染症法の改正により、発生動向調査の対象疾病の類型の見直しや結核予防法との統合等大幅な変更があり、その後平成 20 年 1 月には「風しん」及び「麻しん」が五類感染症の定点把握の対象から五類感染症の全数把握対象に変更された。5 月には「鳥インフルエンザ（H5N1）」が二類感染症に追加されるとともに、感染症の類型に新型インフルエンザ等感染症が追加された。平成 23 年 2 月には「チクングニア熱」が四類感染症に、「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が五類感染症（定点）に追加された。

平成 25 年 3 月から「重症熱性血小板減少症候群（病原体が SFTS ウイルスであるものに限る。）」が四類感染症に、同年 4 月から「侵襲性インフルエンザ菌感染症」「侵襲性髄膜炎菌感染症」「侵襲性肺炎球菌感染症」が五類感染症（全数）に追加され、「髄膜炎菌性髄膜炎」は削除された。さらに 5 月から「鳥インフルエンザ（H7N9）」が指定感染症に定められた。また、10 月から感染性胃腸炎のうち病原体がロタウイルスであるものについて、基幹定点の対象疾病となった。

また、平成 26 年 4 月、鳥インフルエンザ A（H7N9）について、指定感染症としての指定が 1 年間延長された。同年 7 月からは、「中東呼吸器症候群（MERS）」が指定感染症となった。9 月からは、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」、「播種性クリプトコックス症」、「水痘（入院例に限る）」「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が、五類全数把握対象疾患に追加された。11 月には感染症法の一部を改正する法律が公布により、「鳥インフルエンザ（H7N9）」及び「中東呼吸器症候群（MERS）」が二類感染症へ追加された。

さらに、平成 28 年 2 月には四類感染症にジカウイルス感染症が追加された。

なお、平成 28 年 4 月には感染症情報収集体制強化等が国から示され、病原体定点からの病原体検出情報等の充実を図っているところである。

このような本事業経過の中、県はこれまで感染症情報を週及び月単位で収集・分析し、関係機関に還元するとともに、ホームページを通じて関係者や県民に公開してきたが、平成 28 年度からは「山梨県感染症情報センター」が衛生環境研究所内に移され、患者発生状況等や病原体検出情報について引き続き広く情報提供・公開を行っている。

２　対象感染症

平成 28 年 2 月 15 日現在、全数把握対象 87 疾患、定点把握対象 25 疾患及び、法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症を調査対象としている。

全数把握対象（87 疾病）

	対　象　疾　病
一類感染症（7 疾病）	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
二類感染症（7 疾病）	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）、(12)中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）、(13) 鳥インフルエンザ（H5N1）、(14) 鳥インフルエンザ（H7N9）
三類感染症（5 疾病）	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス
四類感染症（44 疾病）	(20)Ｅ型肝炎、(21)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22)Ａ型肝炎、(23)エキノコックス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサヌル森林病、(29)Ｑ熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33) ジカウイルス感染症 (34)重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属ＳＦＴＳウイルスであるものに限る。）、(35)腎症候性出血熱、 (36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１及びＨ７Ｎ９を除く。）、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)Ｂウイルス病、(49) 鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兎病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱
五類感染症（22 疾病）	(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（Ｅ型肝炎及びＡ型肝炎を除く。）、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ

	脳炎及びリフトバレー熱を除く。)、(68)クリプトスポリジウム症、(69)クロイツフェルト・ヤコブ病、(70)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(71)後天性免疫不全症候群、(72)ジアルジア症、(73)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(74)侵襲性髄膜炎菌感染症、(75)侵襲性肺炎球菌感染症、(76)水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)、(77)先天性風しん症候群、(78)梅毒、(79)播種性クリプトコックス症、(80)破傷風、(81)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(82)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(83)風しん、(84)麻しん、(85)薬剤耐性アシネトバクター感染症
新型インフルエンザ等感染症（2 疾病）	(111)新型インフルエンザ、(112)再興型インフルエンザ
指定感染症	該当なし

定点把握対象（五類感染症・25 疾病、法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）

	対　象　疾　病
小児科定点（11 疾病）	(86)ＲＳウイルス感染症、(87)咽頭結膜熱、(88)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(89)感染性胃腸炎、(90)水痘、(91)手足口病、(92)伝染性紅斑、(93)突発性発しん、(94)百日咳、(95)ヘルパンギーナ、(96)流行性耳下腺炎、
インフルエンザ定点（1 疾病）	(97)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）
眼科定点（2 疾病）	(98)急性出血性結膜炎、(99)流行性角結膜炎
性感染症定点（4 疾病）	(100)性器クラミジア感染症、(101)性器ヘルペスウイルス感染症、(102)尖圭コンジローマ、(103)淋菌感染症
基幹定点（8 疾病）	(89)感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるもの。）(104)クラミジア肺炎（オウム病を除く。)、(105)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(106)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(107)マイコプラズマ肺炎、(108)無菌性髄膜炎、(109)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(110)薬剤耐性緑膿菌感染症
疑似症定点	(113)摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状（明かな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)、(114)発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明かな場合を除く。）

３　地域区分と定点医療機関数

県内で発生している五類感染症の発生動向を地域毎に把握するため、県では、人口及び医療機関の分布を考慮し、下表の数の医療機関を患者定点若しくは、病原体定点として指定している。（医療機関名は、Ⅳ参考資料の１「感染症発生動向調査の指定届出機関一覧表」を参照）

平成 28 年 6 月 1 日現在

		中 北	峡北支所	峡 東	峡 南	富士・東部	計
患者定点	小児科定点	8	5	4	2	5	24
	内科定点	6	3	3	1	4	17
	インフルエンザ定点	14	8	7	3	9	41
	眼科定点	3	2	2	0	2	9
	ＳＴＤ定点	3	2	2	0	2	9
	基幹定点	3	2	2	1	2	10
	疑似症定点	18	10	9	4	11	52
病原体定点	小児科定点	2	0	0	0	1	3
	インフルエンザ定点	1	1	1	1	1	5
	眼科定点	1	0	0	0	0	1
	ＳＴＤ定点	0	0	0	0	0	0
	基幹定点	3	2	2	1	2	10

【定点等説明】

患　者　定　点：定点把握対象の五類感染症の発生状況を報告する医療機関

病　原　体　定　点：病原体の分離等の検査情報の収集や病原体検査のための検査材料を採取する医療機関

小　児　科　定　点：小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）

内　科　定　点：内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）

インフルエンザ定点：小児科定点、内科定点の両者を合わせた医療機関

眼　科　定　点：眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）

ＳＴＤ（性感染症）定点：産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和２３年政令第３２６号）第３条の２第１項第１号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科又は泌尿器科若しくは皮膚科を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）

基　幹　定　点：患者を３００人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）

疑　似　症　定　点：疑似症の発生状況を報告する医療機関

Ⅱ　患者発生状況

１　全数把握対象感染症

山梨県及び全国における平成 28 年の全数把握対象感染症の報告数を「Ⅳ参考資料」の２に示した。

《一類感染症》

報告はなかった。

《二類感染症》

二類感染症 7 疾患のうち、結核（103 例）の報告があった。

《三類感染症》

三類感染症 5 疾患のうち、コレラ(1 例)（エルトール彦島)、腸管出血性大腸菌感染症(9 例)（血清型全て 0157)、パラチフス（1 例）の 3 疾患 11 例の報告があった。

《四類感染症》

四類感染症 44 疾患のうち、Ｅ型肝炎（1 例)、つつが虫病（2 例)、デング熱（3 例)、日本脳炎（1 例)、マラリア（1 例)、レジオネラ症（10 例）の 6 疾患 18 例の報告があった。日本脳炎の報告については、これまで県内での報告はなく本調査事業開始以降、初めての報告であった。

《五類感染症》

五類感染症 22 疾患のうち、アメーバ赤痢（6 例)、ウイルス性肝炎（Ｅ型肝炎及びＡ型肝炎を除く）（1 例)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（8 例)、クロイツフェルト・ヤコブ病（2 例)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（2 例)、後天性免疫不全症候群（8 例)、侵襲性インフルエンザ菌感染症（1 例)、侵襲性肺炎球菌感染症（10 例)、水痘（入院例）（7 例)、梅毒（8 例)、風しん（1 例）の 11 疾患 54 例の報告があった。

《新型インフルエンザ等感染症》

報告はなかった。

２　定点把握対象感染症

≪五類感染症・25 疾病≫

山梨県および全国における平成 28 年の疾患別報告数と定点医療機関当たりの患者報告数※1（以下、「定点当たり報告数」と言う）をⅣ参考資料の３に示した。本県で患者報告数が多かった疾病は、インフルエンザ（14,572 例）、感染性胃腸炎（7,071 例）、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎（2,712 例）、ヘルパンギーナ（1,107 例）でいずれも報告数が 1,000 例を超えた。定点当たりの報告数が全国に比べて高かった疾病は、手足口病（山梨県 22.8、全国 21.9）、伝染性紅斑（山梨県 22.7、全国 16.3）、百日咳（山梨県 1.1、全国 1.0）、ヘルパンギーナ（山梨県 46.1、全国 41.0）、インフルエンザ（山梨県 355.4、全国 354.6）、性器ヘルペスウイルス感染症（山梨県 9.3、全国 9.3）の 6 疾患であった。

平成 27 年と 28 年における定点当たり報告数の比較をⅣ参考資料の４に示した。定点当たり報告数が前年より増加した疾病は、百日咳（6.7 倍）、流行性耳下腺炎（6.3 倍）など 12 疾病であった。

≪疑似症≫

法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症の報告はなかった。

※１：定点医療機関当たりの患者報告数とは

山梨県が指定する医療機関（指定届出機関）から１週間ごとに報告される患者数を、定点医療機関数で割った値である。県内の指定届出機関の一覧はⅣ参考資料の１に掲載している。

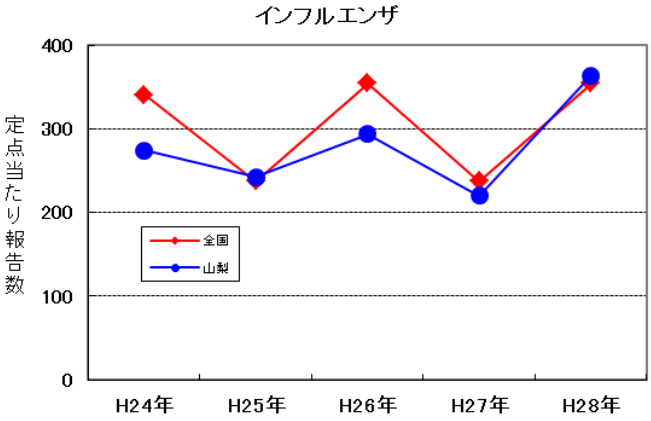
２－１　インフルエンザ定点から報告された感染症

インフルエンザ定点は 41 定点で、県内全保健所管内にあり週報として報告される。

○インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

定点医療機関から 14,572 例（定点当たり報告数 355.4）の報告があり、前年（8,805 例）の約 1.6 倍に増加した。

最近 5 年間の状況は全国とほぼ同様の推移であった。

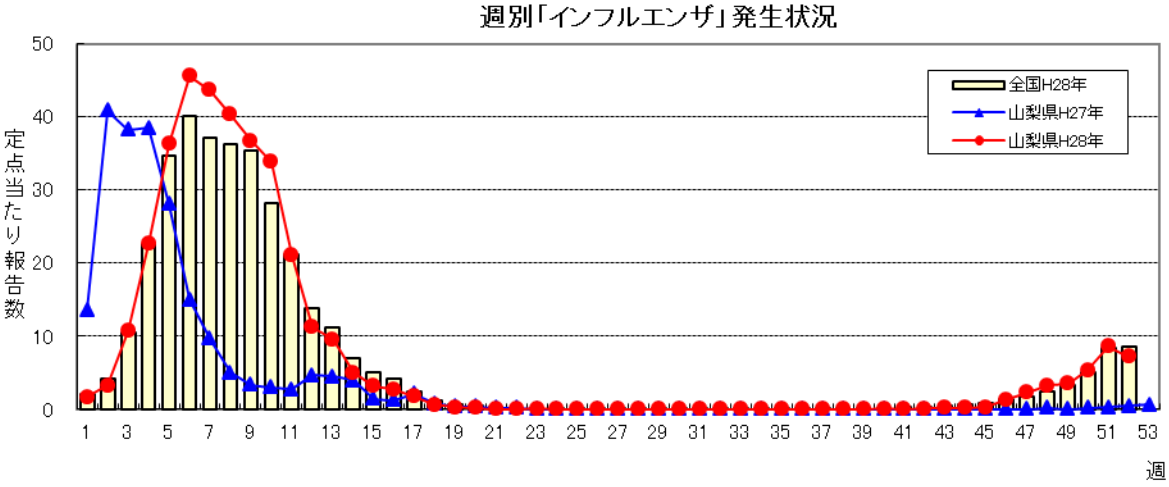


《週別発生状況》

2015/2016 シーズンは H27 年の第 37 週から患者報告が始まり、H28 年の第 1 週（1.7）に定点当たり報告数が流行開始の基準となる 1.0 を超えた。第 3 週には注意報レベル※2 の 10 を超え、第 5 週には 36.3 と警報レベル※2 である 30 を超えた。第 13 週（9.6）に警報レベルが解除されて以降は報告数が減少したが、第 18 週（0.6）に 1.0 以下となるまで流行は継続した。ピークは第 6 週（45.6）であった。

2016/2017 シーズンは第 35 週から患者報告が始まり、第 46 週（1.3）には流行開始の基準となる 1.0 を超えた。

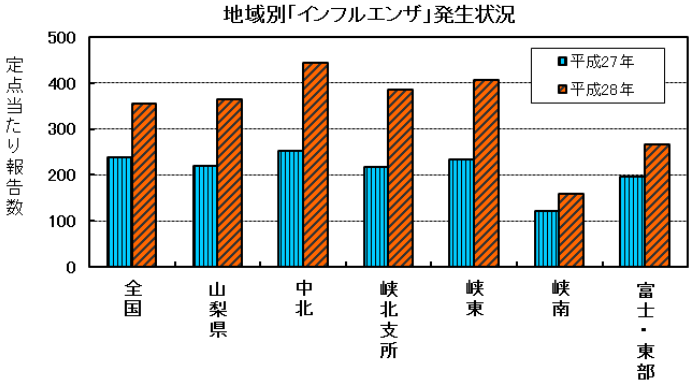
年間を通じた発生状況は、全国とほぼ同様の推移であった。



《地域別発生状況》

定点当たりの報告数が最も多かったのは中北保健所管内（444.9）、次いで峡東保健所管内（405.4）であった。最も少なかったのは前年と同じ峡南保健所管内（159.7）であった。

全ての保健所管内で前年よりも報告数が大幅に増加した。



※２：注意報レベル、警報レベルとは

警報・注意報のねらいは、感染症発生動向調査における定点把握感染症のうち、公衆衛生上その流行現象の早期把握が必要な疾病について、流行の原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための資料として、関係者に向け、データに何らかの流行現象がみられることを、一定の科学的根拠に基づいて迅速に注意喚起することにある。

○　警　報レベル　大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを指します。

○　注意報レベル　流行の発生前であれば今後４週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指す。

警報レベルは１週間の定点当たり報告数がある基準値（開始基準値）以上で開始し、別の基準値（終息基準値）未満で終息となる。注意報レベルは１週間の定点当たり報告数がある基準値以上の場合である。警報・注意報レベルの基準値は、これまでの感染症発生動向調査データから、以下のとおり定められている。

疾病	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	－
感染性胃腸炎	20	12	－
水痘	7	4	4
手足口病	5	2	－
伝染性紅斑	2	1	－
百日咳	1	0.1	－
ヘルパンギーナ	6	2	－
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	－
流行性角結膜炎	8	4	－

基準値はすべて定点当たり報告数です。注意報の「－」は対象としないことを意味する。

２－２　小児科定点から報告された感染症

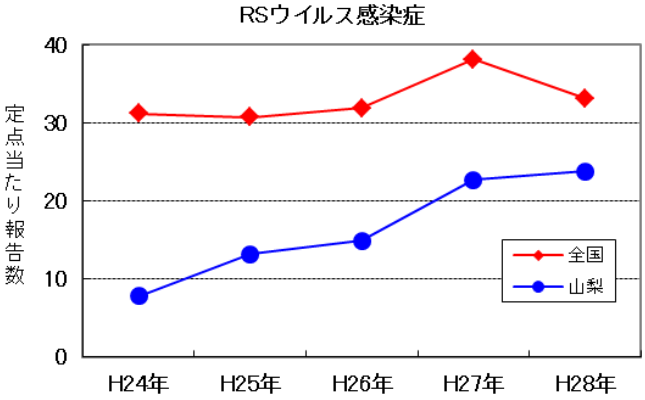
小児科定点は 24 定点で、県内全保健所管内にあり週報として報告される。

総報告数は 14,353 例で、前年（13,919 例）より増加した。前年と比較して報告数が増加した疾患は、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、水痘、百日咳、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎の 7 疾患であった。

○ ＲＳウイルス感染症

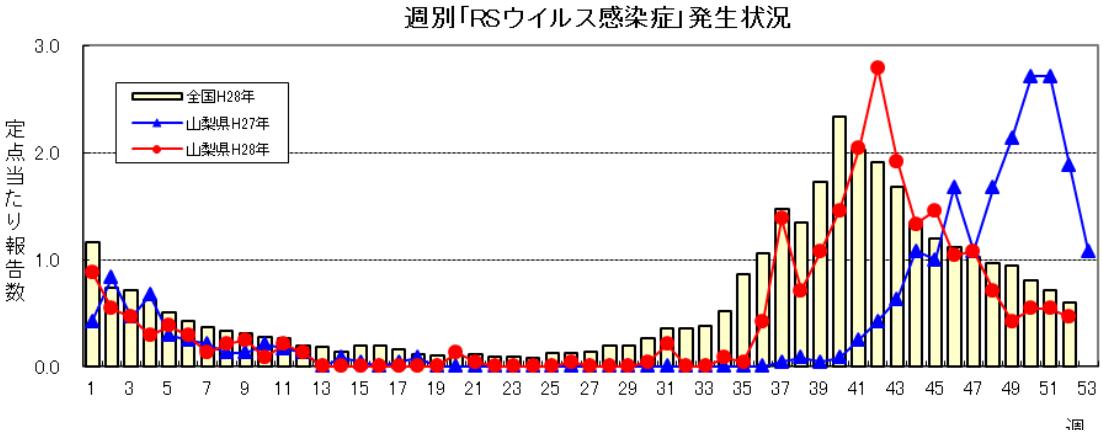
定点医療機関から 571 例（定点当たり報告数 23.8）の報告があり、前年(544 例)よりもやや増加した。

全国では前年よりも減少したが、本県では 4 年連続で増加している。



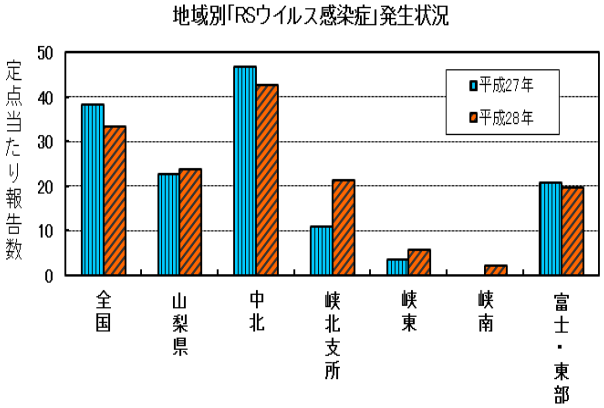
《週別発生状況》

第 37 週に報告数が 1.0 を超え、第 42 週(2.8)をピークとする冬季の流行がみられた。全国では、36 週に 1.0 を超え、第 40 週（2.3）にピークを示した。



《地域別発生状況》

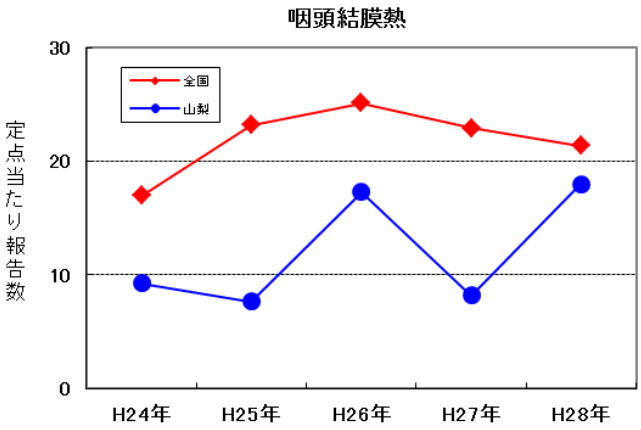
定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内(42.5)で、全国よりも多い報告数であった。これに対して峡東保健所管内(5.8)、峡南保健所管内(2.0)では少ない報告数であり、地域による流行の偏りがみられた。前年に比較して峡北支所管内で報告数の増加が大きかった。



○ 咽頭結膜熱

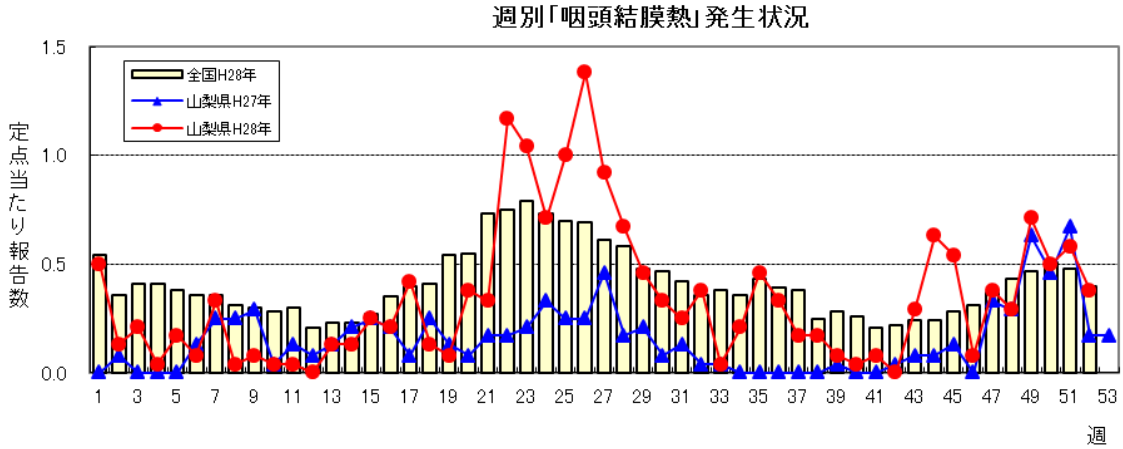
定点医療機関から 432 例（定点当たり報告数 18.0）の報告があり、前年（196 例）の約 2.2 倍に増加した。

全国では 2 年続けて減少している。



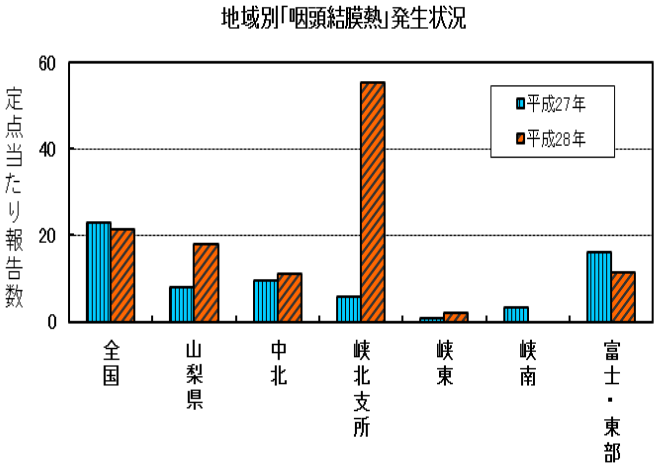
《週別発生状況》

第 22 週（1.2）、26 週（1.4）をピークとする夏季の流行が見られたが、警報レベルである 3 は超えなかった。第 44 週(0.6)、49 週(0.7)の冬季にもやや小さいピークがみられた。



《地域別発生状況》

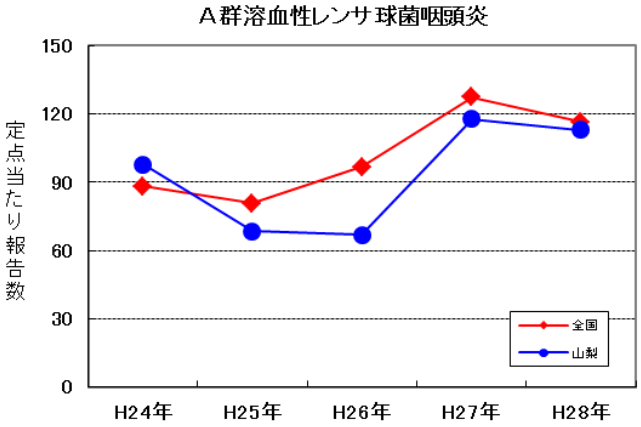
定点当たり報告数が最も多かった峡北支所管内(55.2)では前年に比べ著しく増加し、全国を大幅に上回った。これに対して峡南保健所管内では報告が無く、地域による流行に偏りがみられた。



○ Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

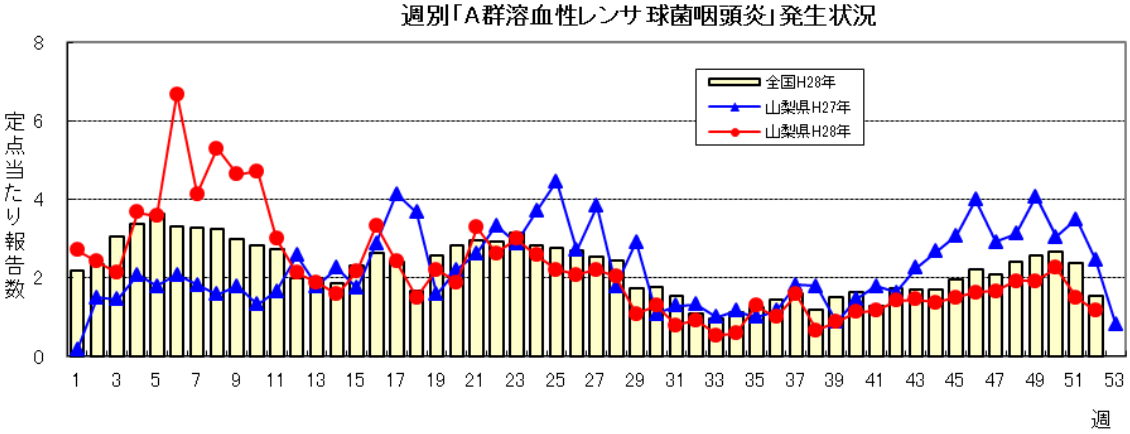
定点医療機関から 2,712 例（定点当たり報告数 113.0）の報告があり、前年（2,827 例）よりもやや減少した。

全国でも前年よりやや減少しており、全国の状況とほぼ同様に推移している。



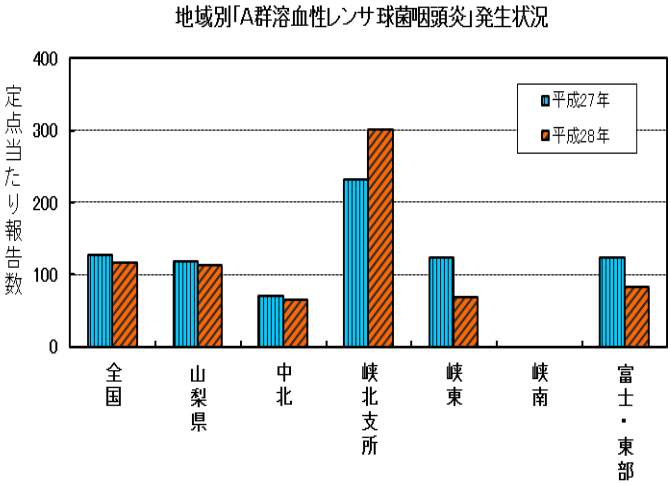
《週別発生状況》

第 6 週(6.7)を頂点とする大きいピークが見られ、同時期の全国を上回ったが、警報レベルである 8 は超えなかった。その後は全国と同様に推移し、第 21 週(3.3)、50 週(2.3)を頂点とする緩やかなピークがみられた。



《地域別発生状況》

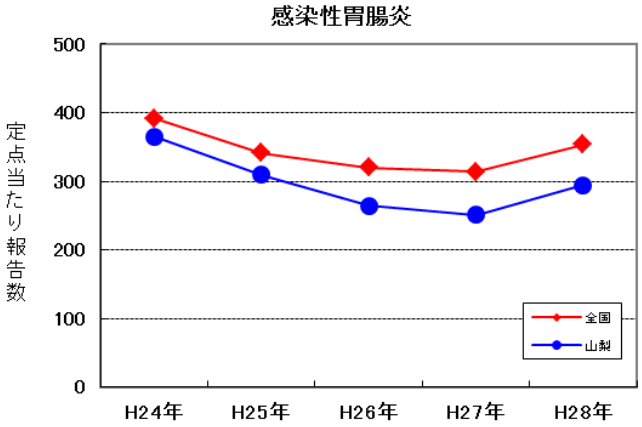
定点当たり報告数の最も多かった峡北支所管内(301.2)では前年よりも増加し、全国を大幅に上回った。峡南保健所管内(0.5)では報告数は少なく、地域による流行の偏りがみられた。



○ 感染性胃腸炎

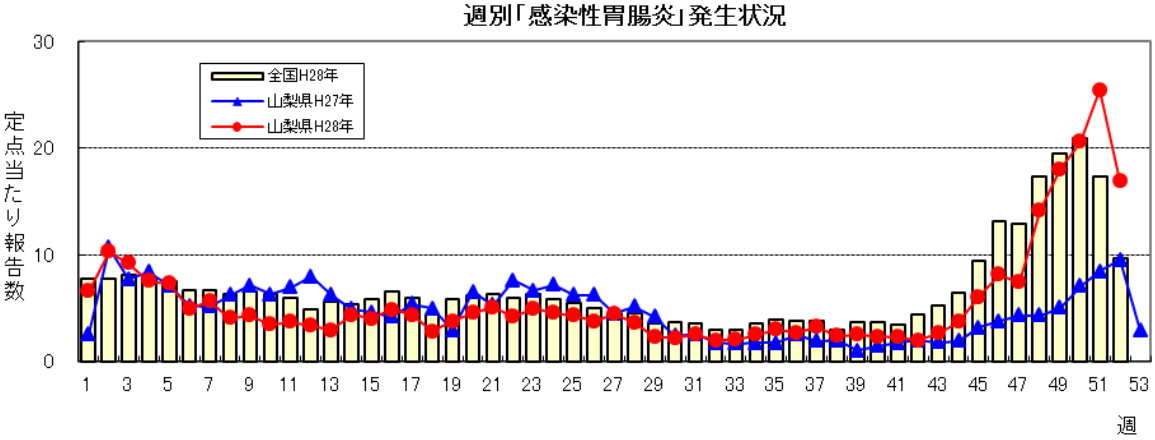
定点医療機関から 7,071 例（定点当たり報告数 294.6)の報告があり、前年（6,026 例）より増加した。

最近 5 年間は全国より少ない報告数で、同様に推移している。



《週別発生状況》

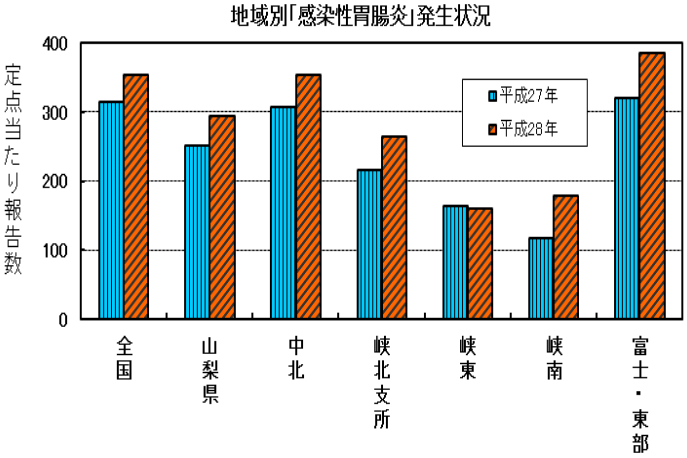
定点当たり報告数のピークは第 51 週(25.4)で、年間を通しての発生状況は、全国とほぼ同様の推移であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数は峡東保健所管内(159.5)を除く保健所管内で増加した。

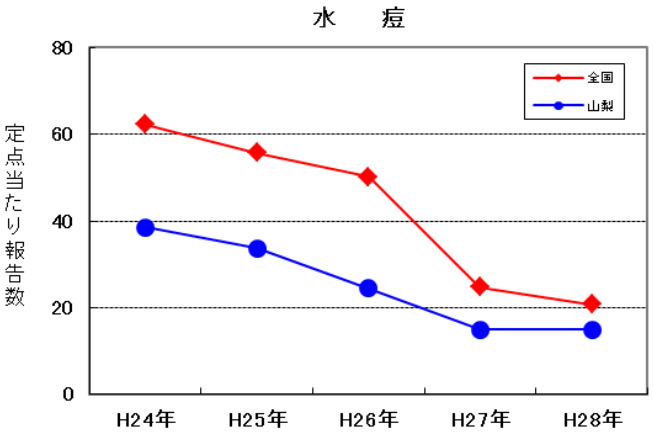
前年と同様に中北保健所管内(354.0)及び富士・東部保健所管内(385.0)の定点当たり報告数は 300 を超え、地域別発生状況も昨年とほぼ同様であった。



○ 水　痘

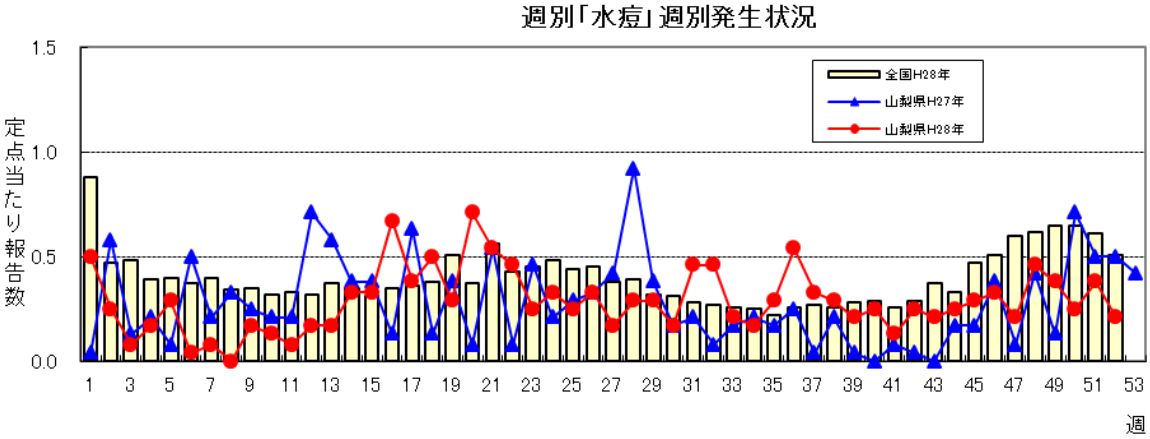
定点医療機関から 359 例（定点当たり報告数 15.0）の報告があり、前年（358 例）とほぼ同数であった。

最近 5 年間は、全国、本県ともに減少傾向である。



《週別発生状況》

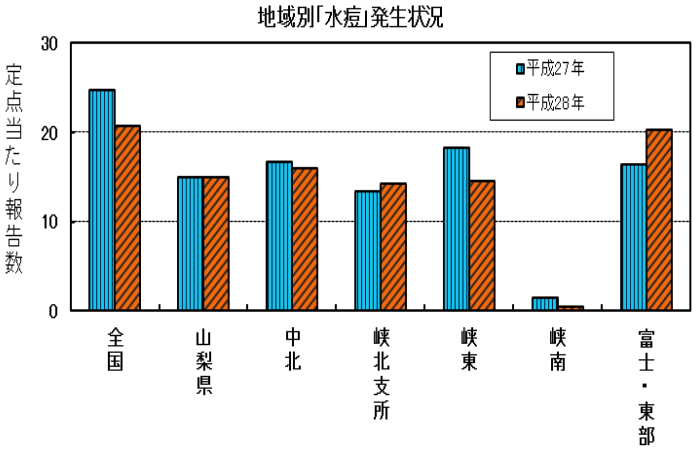
定点当たり報告数のピークは第 20 週（0.7）であったが、流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、富士・東部保健所管内（20.2）であった。

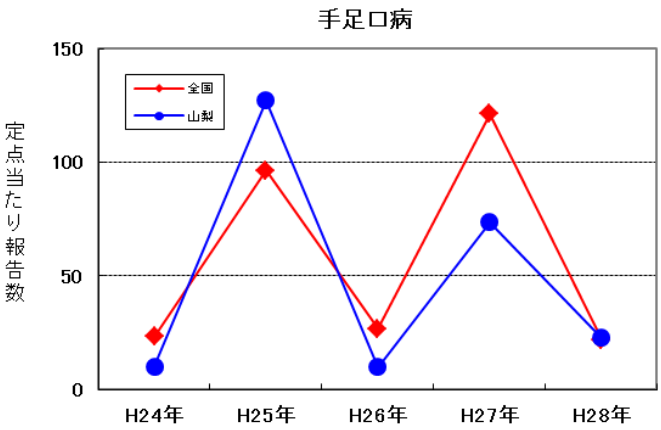
全ての保健所管内で、前年とほぼ同様の状況であった。



○ 手足口病

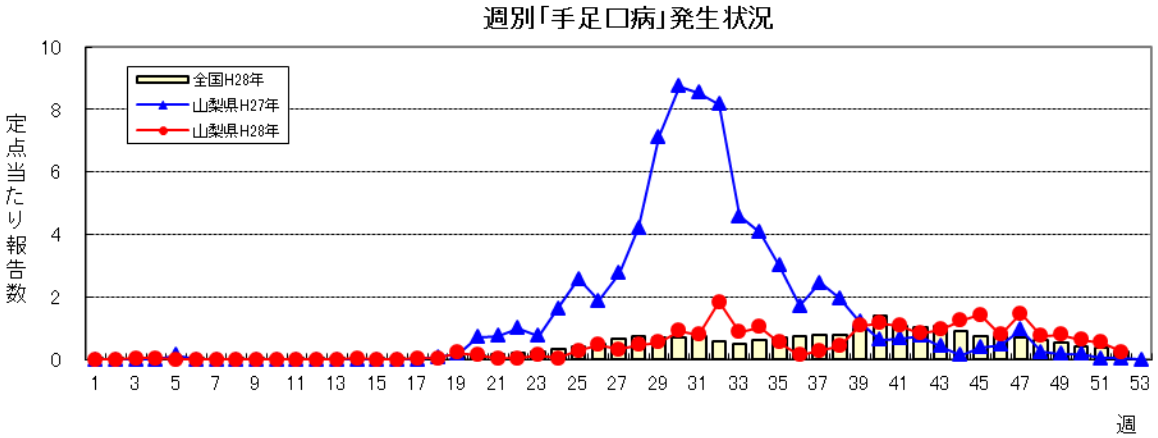
定点医療機関から548例（定点当たり報告数22.8）の報告があり、前年（1,766例）の約31%と著しく減少した。

全国でも大幅な減少がみられ、最近5年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

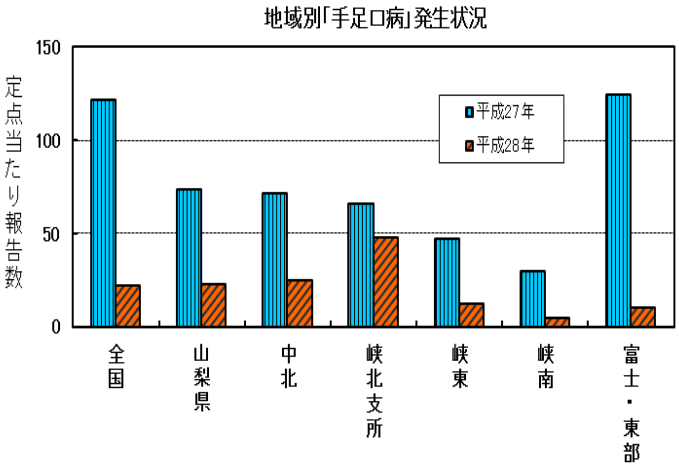
第32週（1.8）の夏季と47週（1.5）の冬季に小さいピークがみられたが、警報レベルである5を超える大きい流行はみられなかった。発生状況は全国とほぼ同様であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、峡北支所管内(48.0)であった。

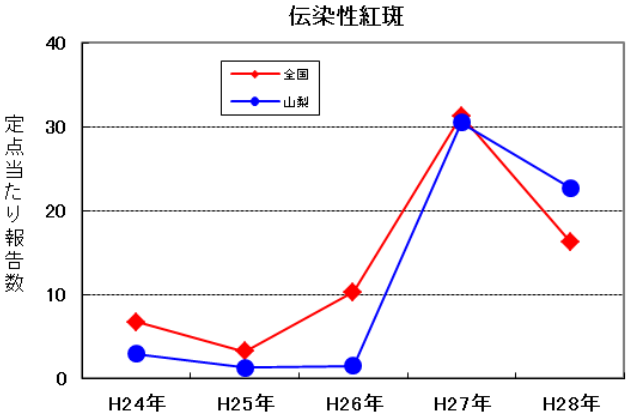
全ての保健所管内で前年よりも大幅に報告数が減少した。



○ 伝染性紅斑

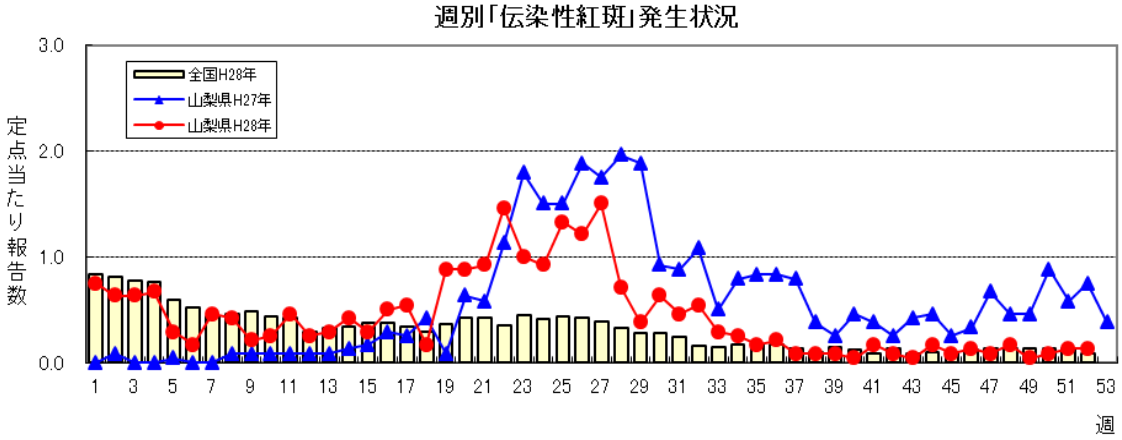
定点医療機関から 545 例（定点当たり報告数 22.7）の報告があり、前年（732 例）の約 74%と大幅に減少した。

全国でも大幅な減少がみられており、最近 5 年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

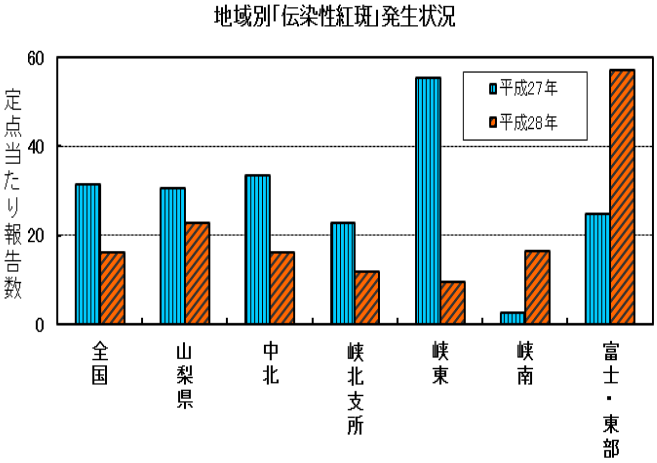
第 1 週(0.8)から患者報告数は減少傾向であったが、第 19 週から増加し、第 22 週(1.5)、第 27 週（1.5）をピークとする二峰性の流行がみられた。この夏季の流行は全国を大幅に上回ったが、警報レベルである 2 は超えなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数は峡南保健所管内(16.5)、富士・東部保健所管内(57.2)で大幅に増加した。その他の保健所管内では減少し、特に前年に最多であった峡東保健所管内(9.5)は、最も少ない報告数であった。

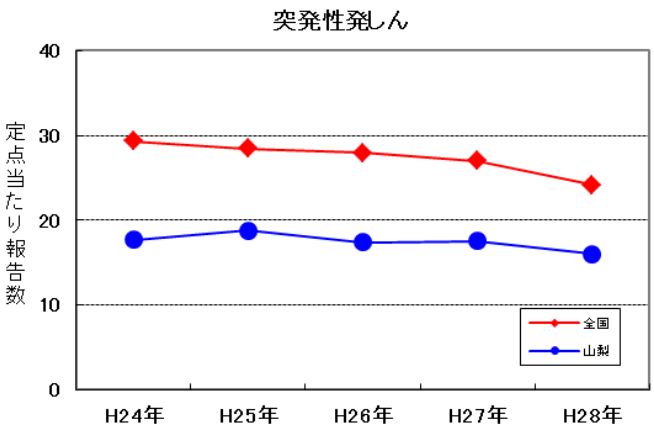
県全体としては減少したが、地域的な偏りが大きかった。



○ 突発性発疹

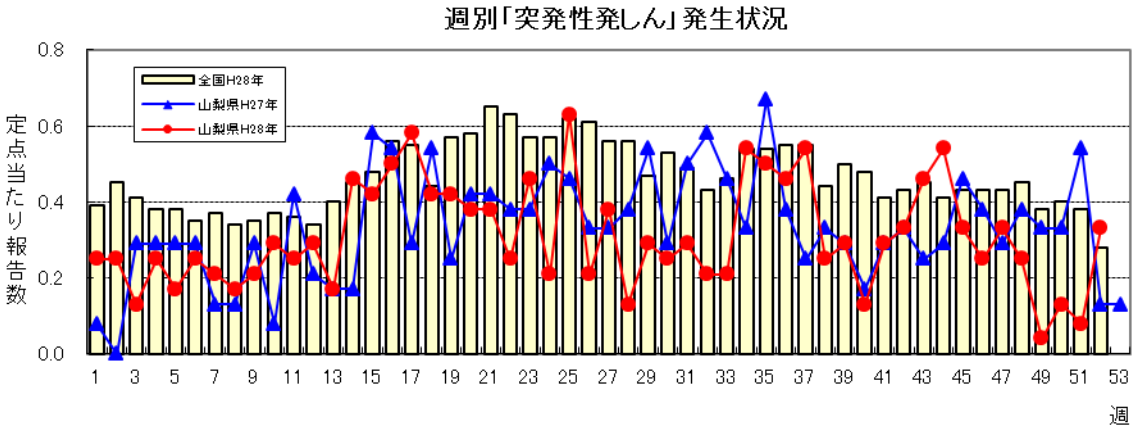
定点医療機関から 385 例（定点当たり報告数 16.0）の報告があり、前年（421 例）よりやや減少した。

最近 5 年間はほぼ横ばいで、全国より少ない状況で推移している。



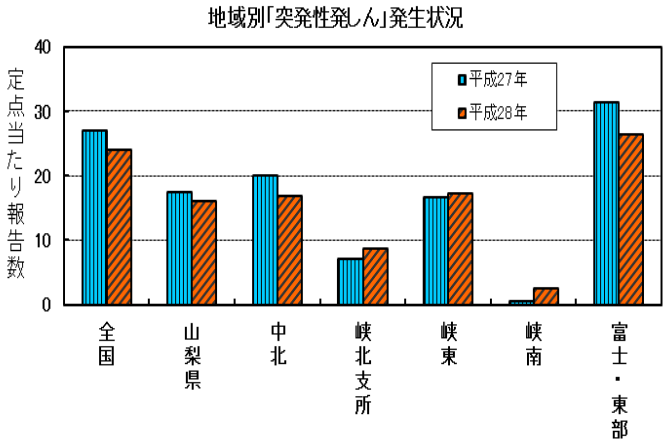
《週別発生状況》

全国の定点当たり報告数を大きく上回ることはなく、流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

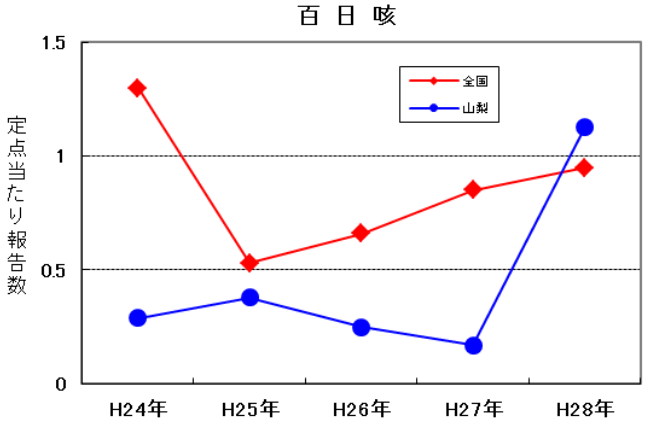
定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（26.4）であった。全ての保健所管内で前年とほぼ同様の状況であった。



○ 百日咳

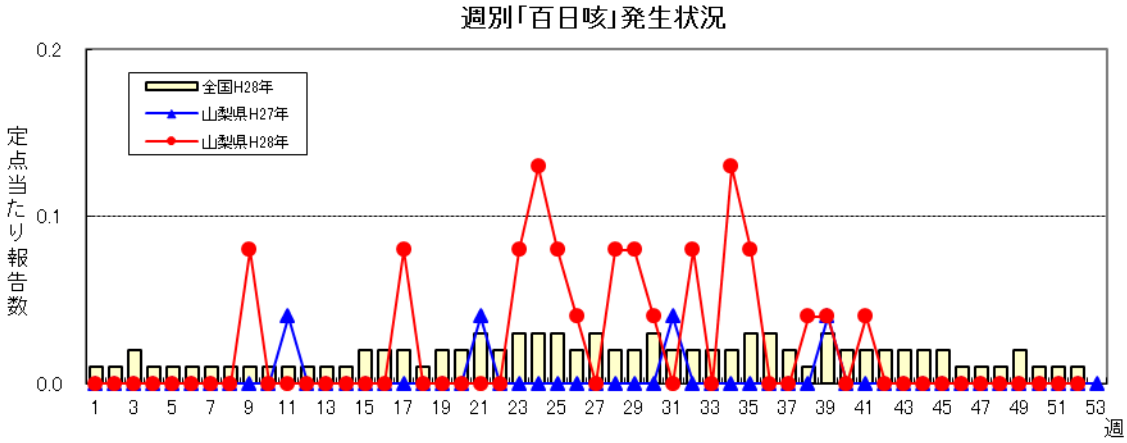
定点医療機関から 27 例（定点当たり報告数 1.1）の報告があり、前年（4 例）の約 6.7 倍と大幅に増加した。定点当たり報告数が全国を上回ったのは、最近 5 年間では本年だけである。

全国では3年続けて増加がみられている。



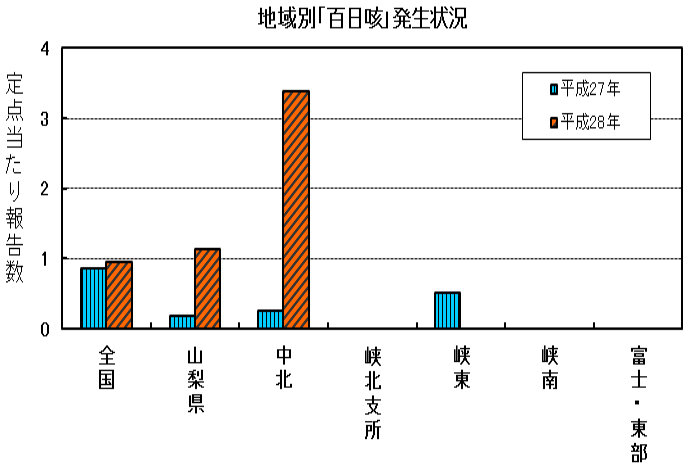
《週別発生状況》

定点あたり報告数は第 24 週（0.1）、第 34 週（0.1）が多かったが、警報レベルである 1 は超えなかった。



《地域別発生状況》

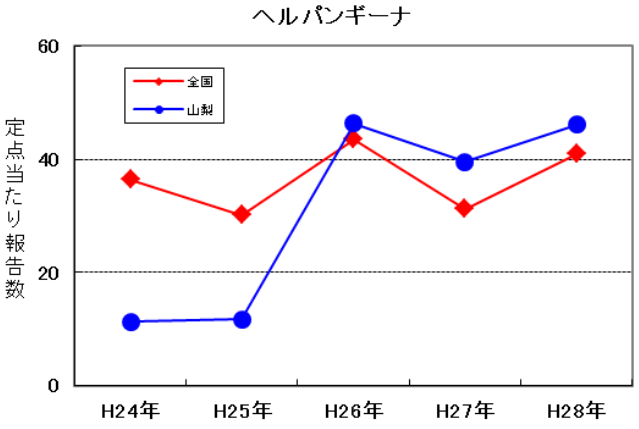
報告のあった27例は全て中北保健所管内（定点当たり報告数 3.4）であり、前年よりも大幅に増加した。



○ ヘルパンギーナ

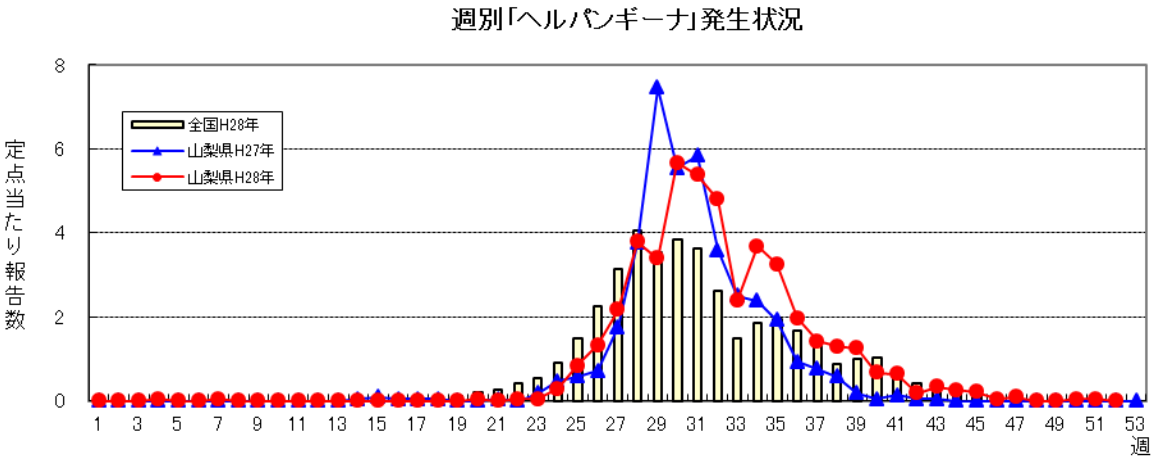
定点医療機関から 1,107 例（定点当たり報告数 46.1）の報告があり、前年（950 例）よりも増加した。

定点当たり報告数は全国と同様に推移しているが、最近 3 年間は全国を上回っている。



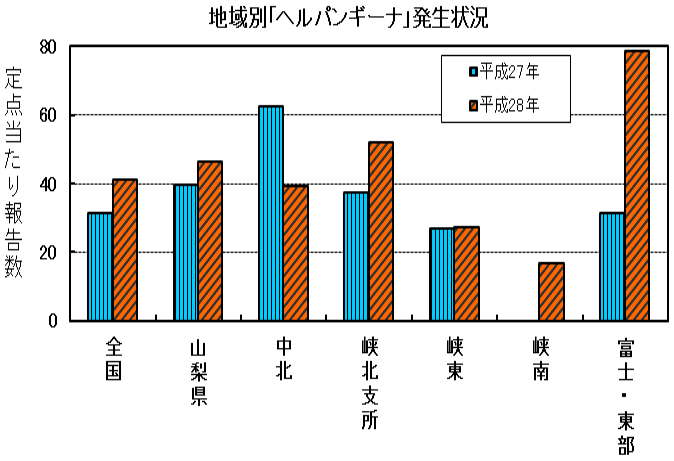
《週別発生状況》

第 30 週にピーク(5.7)を示す夏季の流行がみられたが、警報レベルである 6 は超えなかった。



《地域別発生状況》

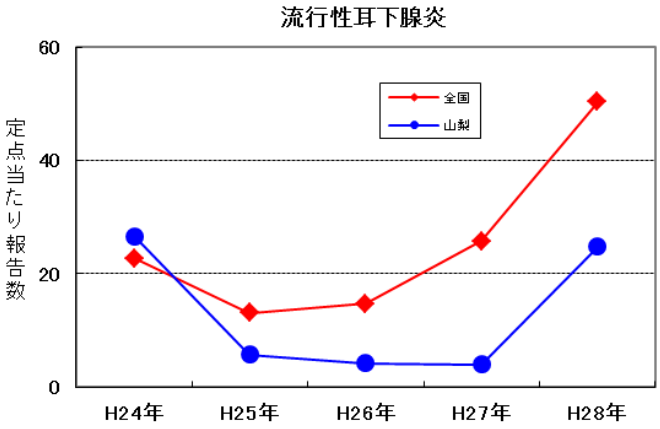
定点当たり報告数は、中北保健所管内を除く保健所管内で増加がみられたが、特に富士・東部保健所管内(78.6)では大幅な増加であった。



○ 流行性耳下腺炎

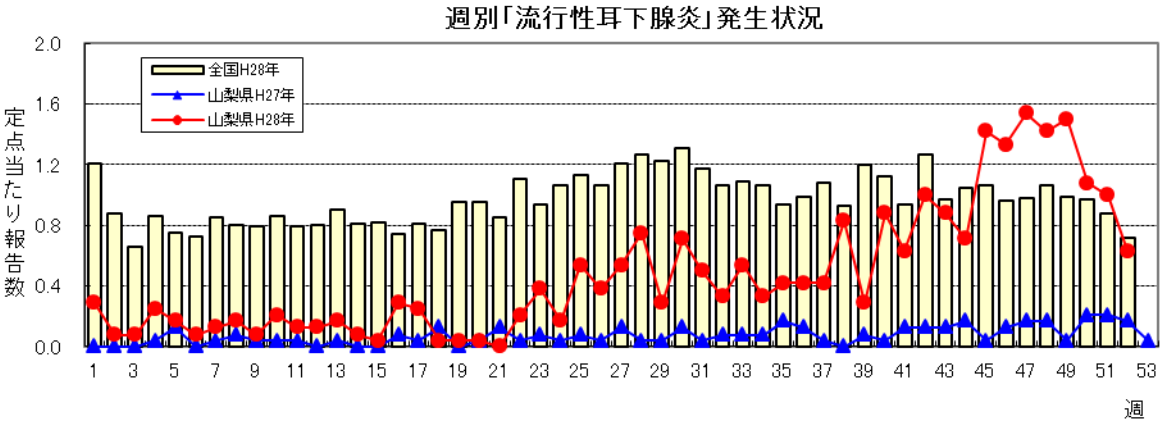
定点医療機関から 596 例（定点当たり報告数 24.8）の報告があり、前年（95 例）の約 6.3 倍と大幅に増加した。

全国でも同様に大幅な増加がみられた。



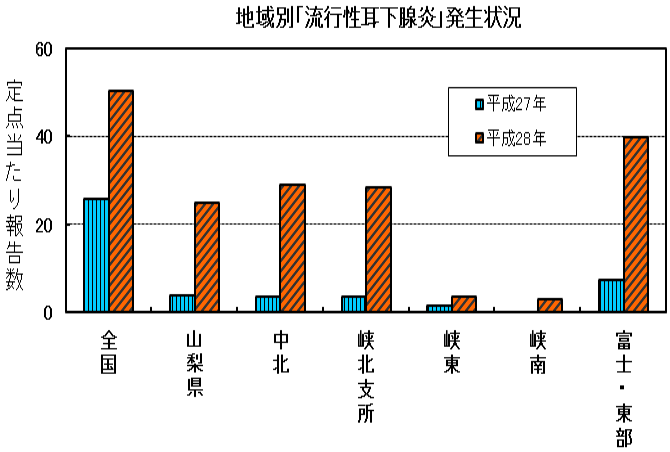
《週別発生状況》

第 22 週から報告数が増加傾向を示し、第 45 週から第 51 週には定点あたり報告数が 1.0 を超え、全国を上回ったが、注意報レベルである 3 は超えなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（40.0）であった。全ての保健所管内で大幅な増加がみられた。



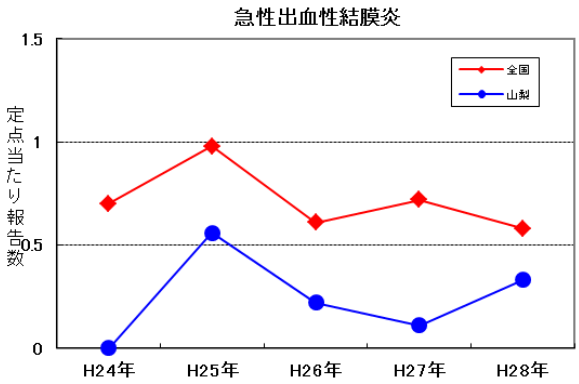
２－３　眼科定点から報告された感染症

眼科定点は、峡南保健所を除く 3 保健所、1 支所管内に 9 定点あり、週報として報告される。平成 28 年に報告された総数は 180 例で、急性出血性結膜炎 3 例、流行性角結膜炎 177 例であった。

○ 急性出血性結膜炎

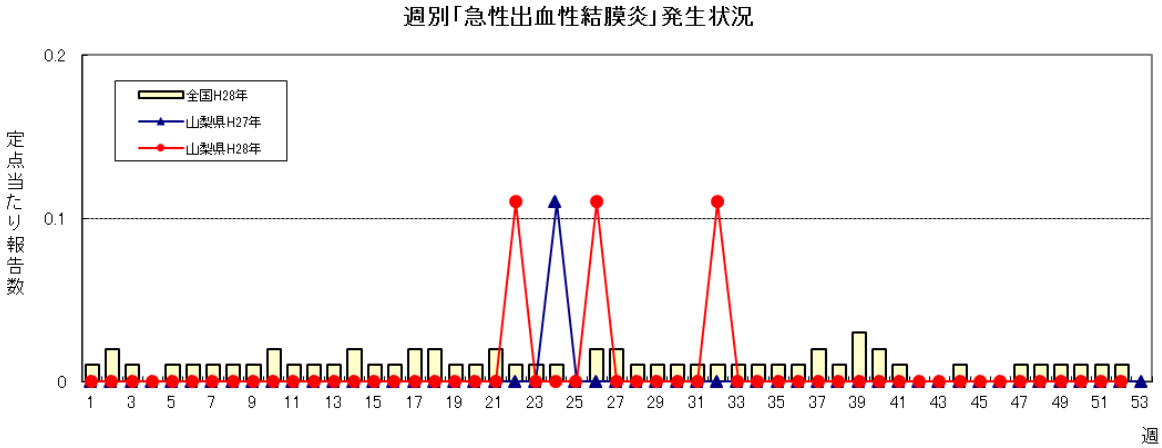
定点医療機関から 3 例（定点当たり報告数 0.3）の報告があり、前年（1 例）よりも増加した。

定点当たり報告数はほぼ横ばいであり、全国よりも少なく推移している。



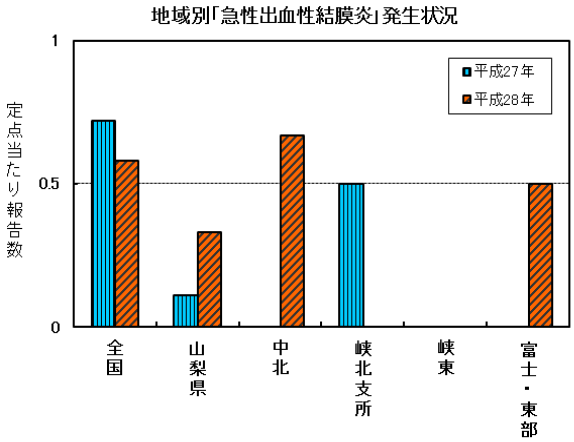
《週別発生状況》

第 22 週、第 26 週、第 32 週に各 1 例の報告があった。



《地域別発生状況》

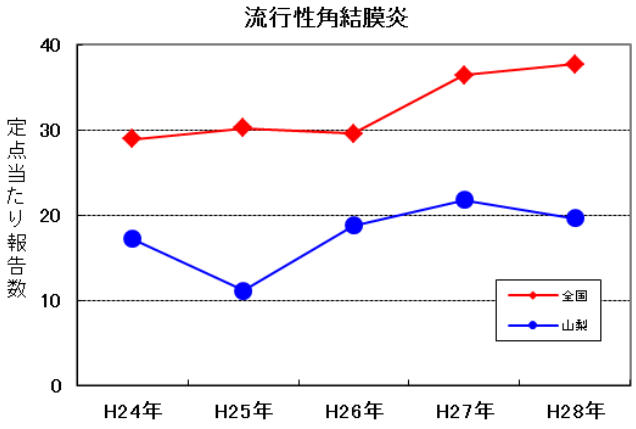
中北保健所管内（定点当たり報告数 0.7）で 2 例、富士東部保健所管内（0.5）で 1 例の報告があった。



○ 流行性角結膜炎

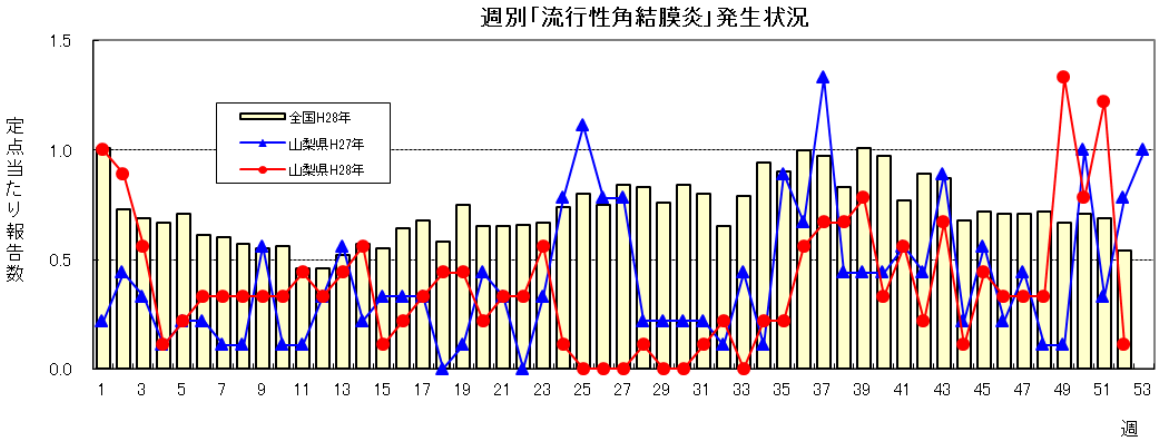
定点医療機関から 177 例（定点当たり報告数 19.7）の報告があり、前年（196 例）より減少した。

定点当たり報告数は全国よりも少なく推移している。



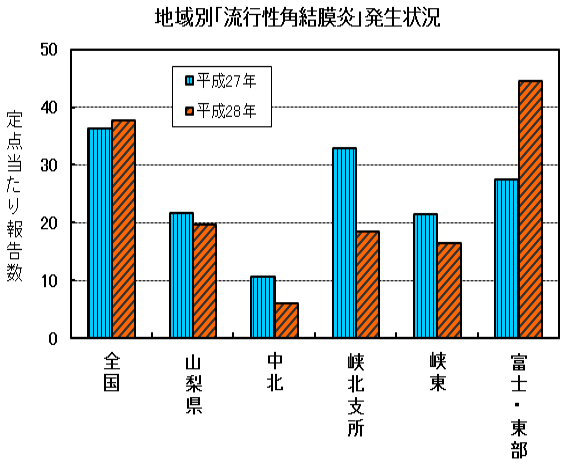
《週別発生状況》

第 1 週（1.0）、第 49 週（1.3）及び第 51 週（1.2）に定点当たり報告数が 1.0 を超えたが、年間を通して大きな流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内(44.5)で前年を大きく上回った。その他の保健所管内では前年よりも減少し、特に峡北支所管内(18.5)で顕著であった。



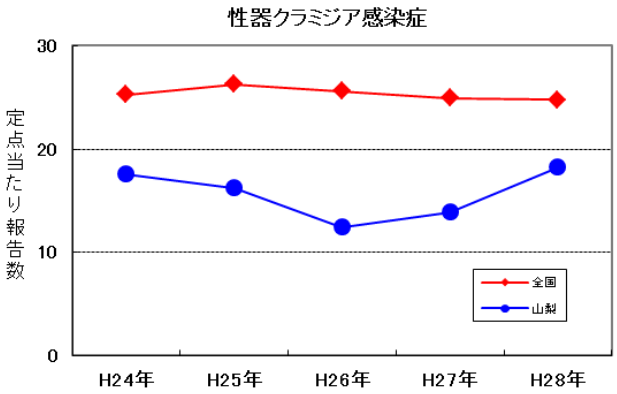
２－４　性感染症定点から報告された感染症

性感染症定点は、峡南保健所を除く 3 保健所、1 支所管内に 9 定点あり、月報として報告される。平成 28 年に報告された総数は 293 例で、前年（252 例）よりも増加した。

○ 性器クラミジア感染症

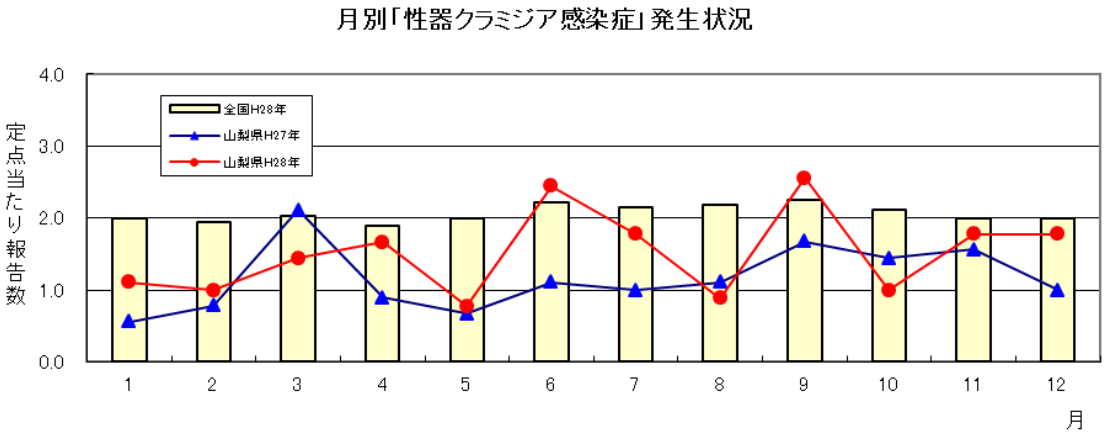
定点医療機関から 164 例(定点当たり報告数 18.2）の報告があり、前年（125 例）より増加した。

全国では定点当たり報告数はほぼ横ばいであるが、本県では H26 年からやや増加傾向である。



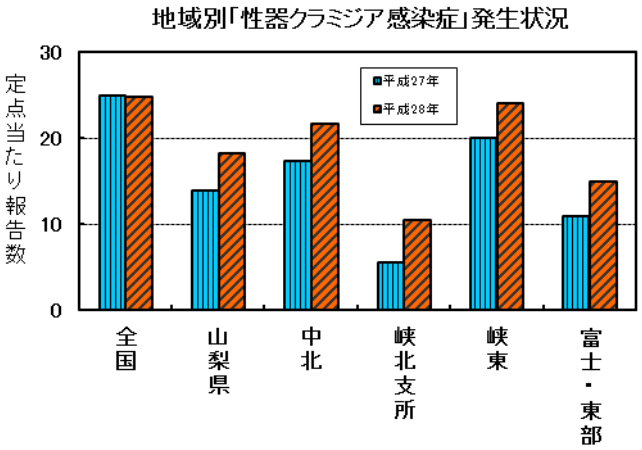
《月別報告数》

定点当たり報告数は、全国とほぼ同様に推移した。



《域別発生状況》

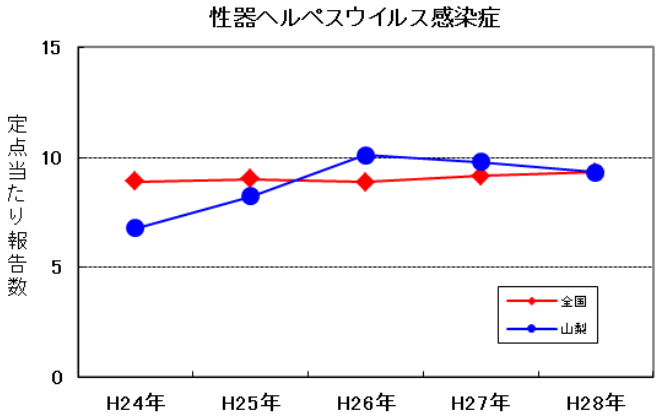
全ての保健所管内で定点当たり報告数が増加した。最も多かったのは峡東保健所管内(24.0)であった。



○ 性器ヘルペスウイルス感染症

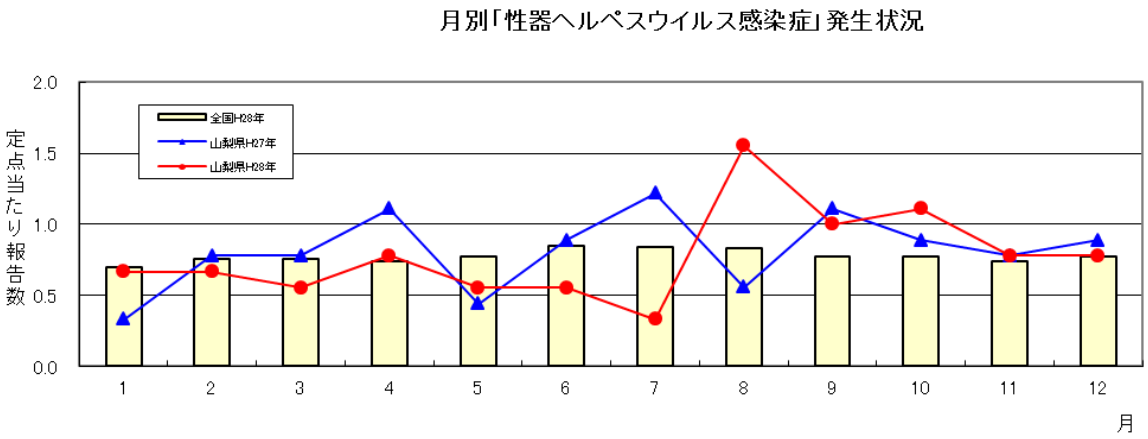
定点医療機関から 84 例（定点当たり報告数 9.3）の報告があり、前年（88 例）よりやや減少した。

全国ではほぼ横ばいに推移しているが、本県では H26 年からやや減少傾向である。



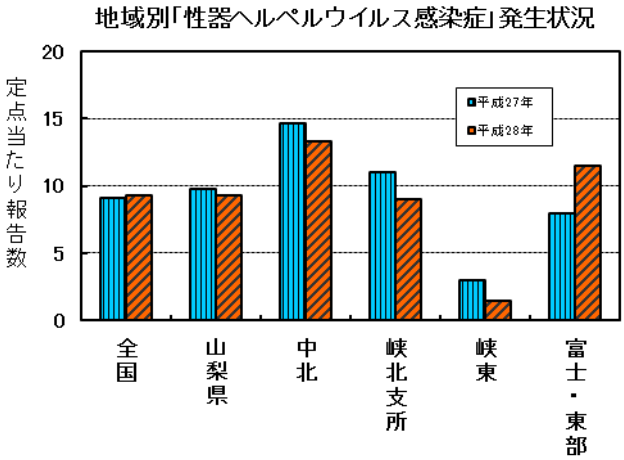
《月別発生状況》

全国とほぼ同様に推移したが、8 月（1.6）の報告数は全国を大きく上回った。



《地域別発生状況》

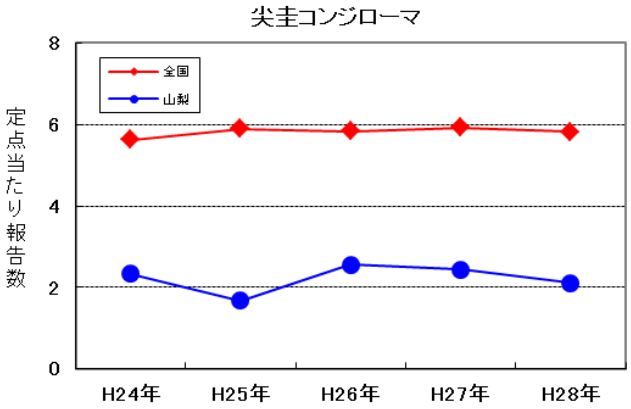
定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内(13.3)であった。富士・東部保健所管内(11.5)では前年よりも増加したが、その他の保健所管内では減少した。発生状況は前年とほぼ同様であった。



○ 尖圭コンジローマ

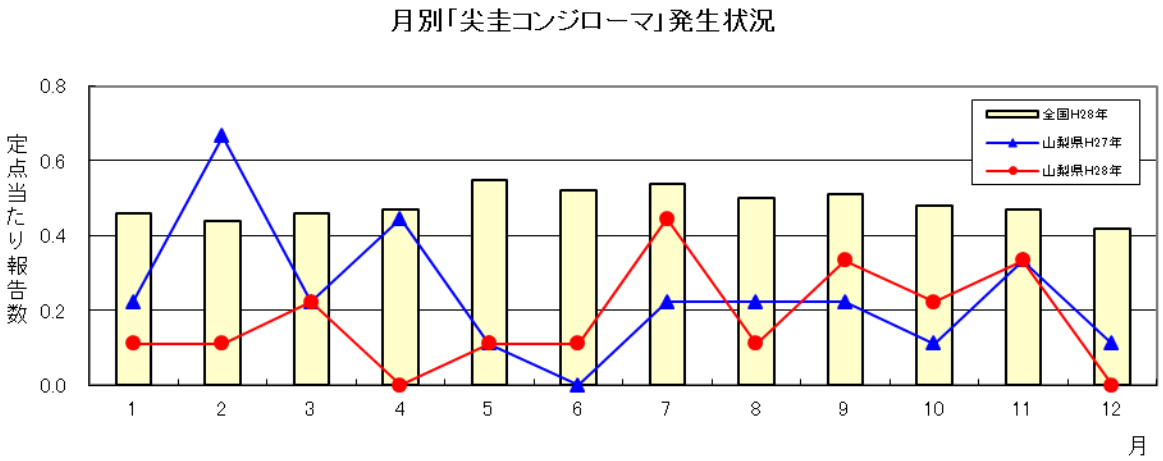
定点医療機関から 19 例（定点当たり報告数 2.1）の報告があり、前年（22 例）よりもやや減少した。

最近 5 年間の状況はほぼ横ばいで、全国よりも少なく推移している。



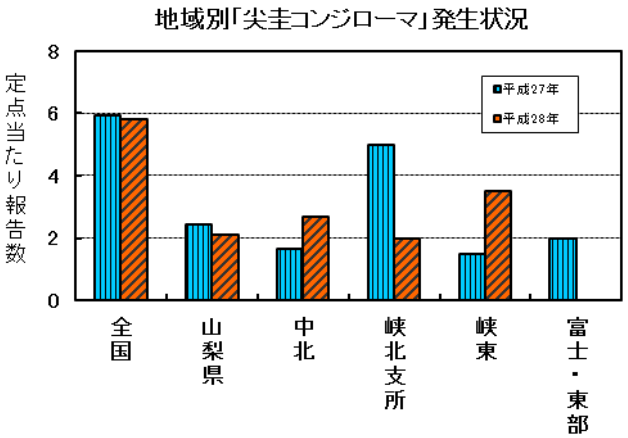
《月別発生状況》

4 月と 12 月を除き、年間を通して患者の報告があった。



《地域別発生状況》

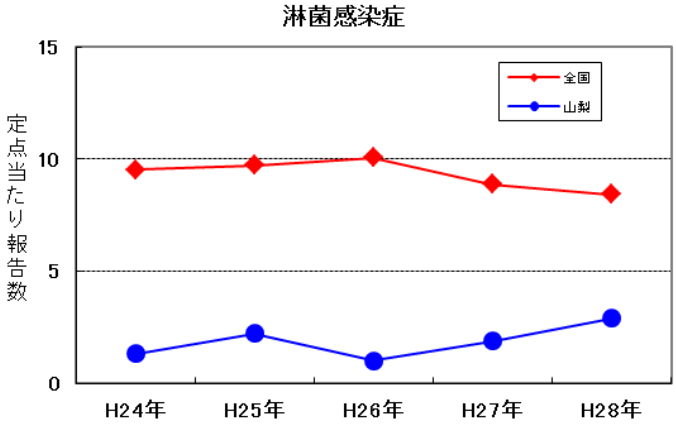
定点当たり報告数が最も多かったのは峡東保健所管内(3.5)であった。前年に最も多かった峡北支所管内（2.0）では大幅に減少し、富士東部保健所管内では報告が無かった。



○ 淋菌感染症

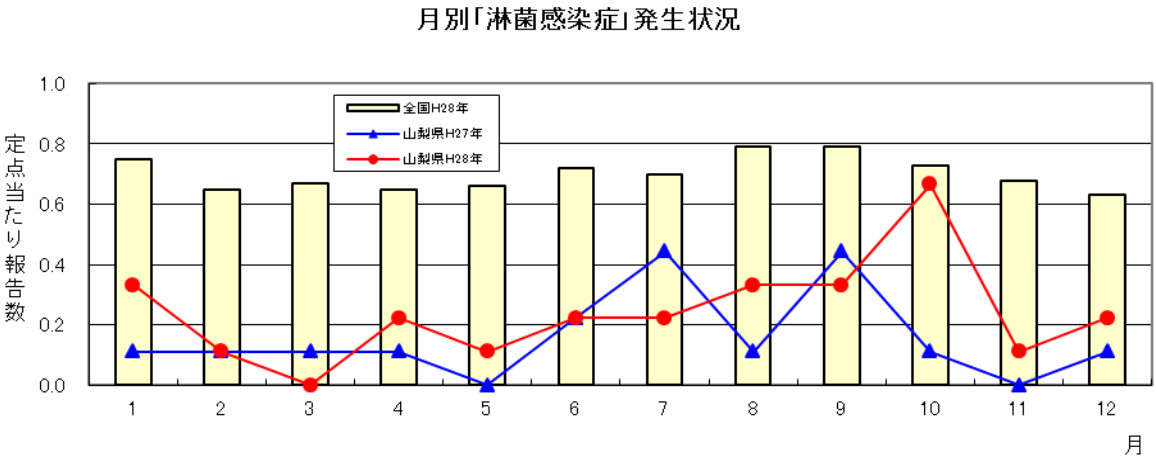
定点医療機関から 26 例（定点当たり報告数 2.9）の報告があり、前年(17 例)よりも増加した。

全国よりも少なく推移しているものの、全国では 2 年続けて減少傾向であり、本県では増加傾向である。



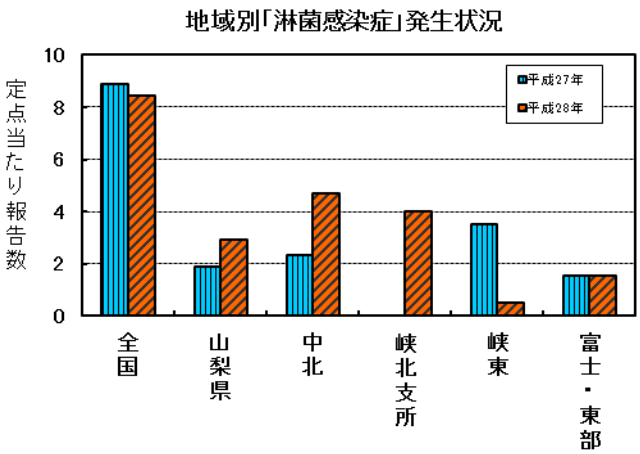
《月別発生状況》

3 月を除き、年間を通して患者の報告があった。10 月(0.7)に報告数がやや多かったものの、同時期の全国(0.7)よりも少ない報告数であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内(4.7)であった。前年に最も報告数が多かった峡東保健所管内(0.5)は、本年は最も少ない報告数であった。また、前年に報告の無かった峡北支所管内(4.0)では報告数の増加がみられた。



２－５　基幹定点から報告された感染症

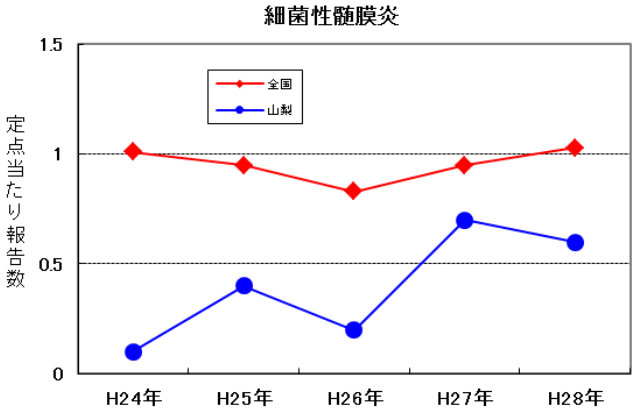
基幹定点は県内全ての保健所管内にあり、計 10 定点である。細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因とした場合を除く）、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病は除く）、感染性胃腸炎（ロタウイルス）は週報として、メシチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症は月報として報告される。

平成 28 年に基幹定点から報告された総数は 506 例（定点当たり報告数 50.6）で、報告数が多かったのは、マイコプラズマ肺炎 288 例、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 148 例であった。

○ 細菌性髄膜炎

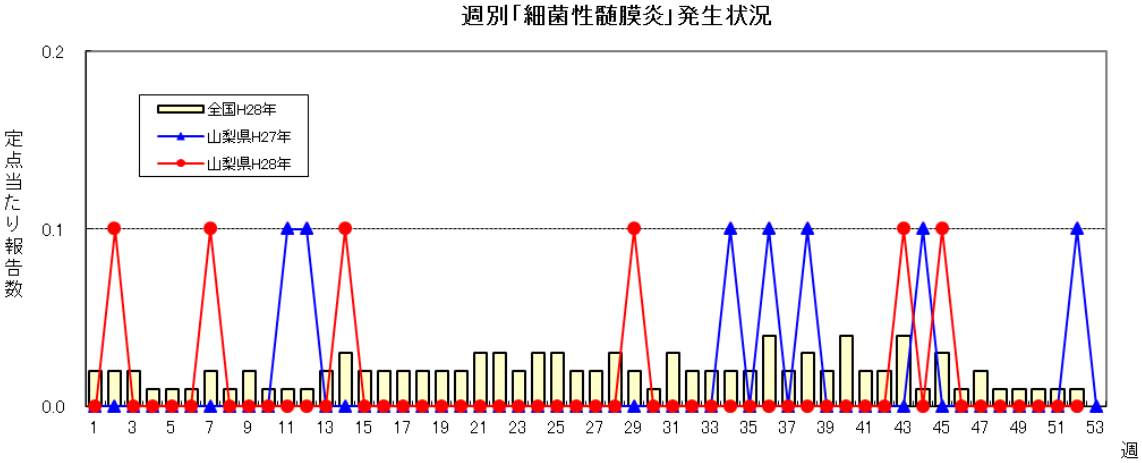
定点医療機関から 6 例（定点当たり報告数 0.6）の報告があり、前年（7 例）より 1 例減少した。

定点当たり報告数は、全国よりも少なく推移している。



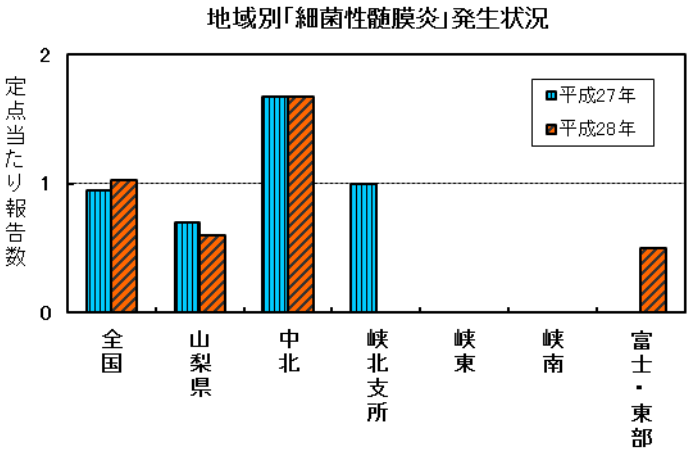
《週別発生状況》

第 2 週, 7 週, 14 週, 29 週, 43 週, 45 週にそれぞれ 1 例の報告があった。



《地域別発生状況》

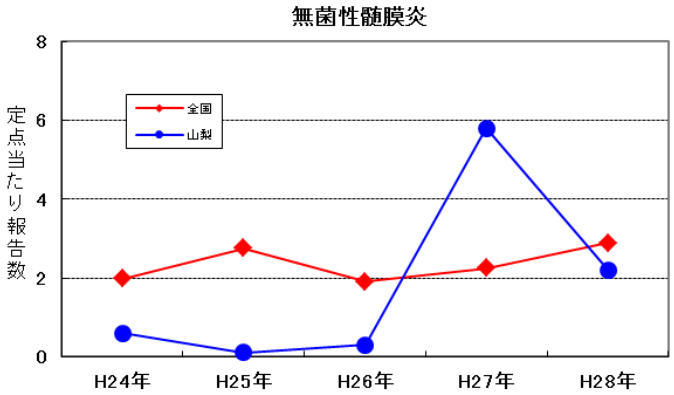
報告があったのは、中北保健所管内 5 例(1.7)、富士東部保健所管内 1 例(0.5)であった。



○ 無菌性髄膜炎

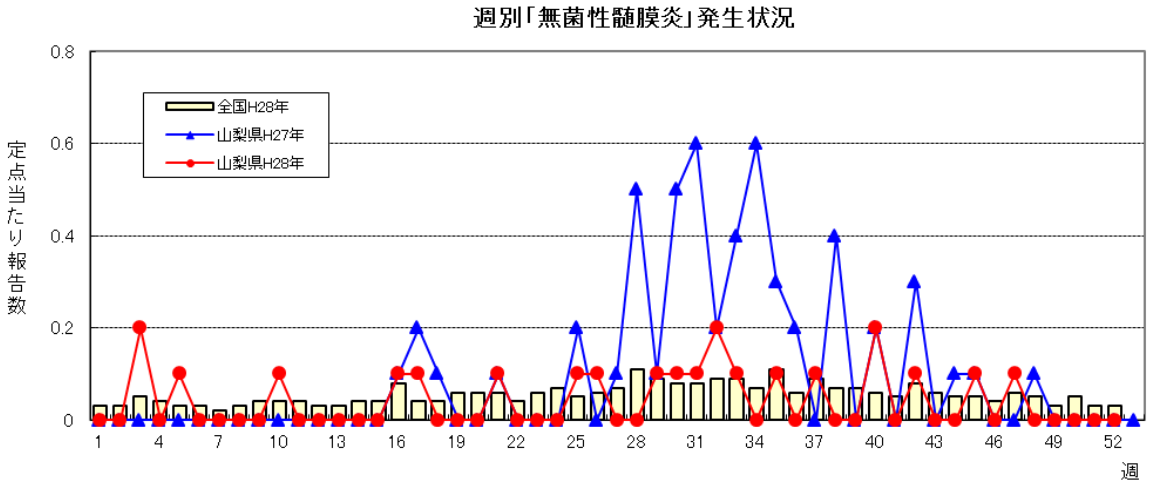
定点医療機関から 22 例（定点当たり報告数 2.2）の報告があり、前年（58 例）の約 38%と大幅に減少した。

前年は全国よりも大幅に報告数が多かったが、本年は全国よりも少ない報告数であった。



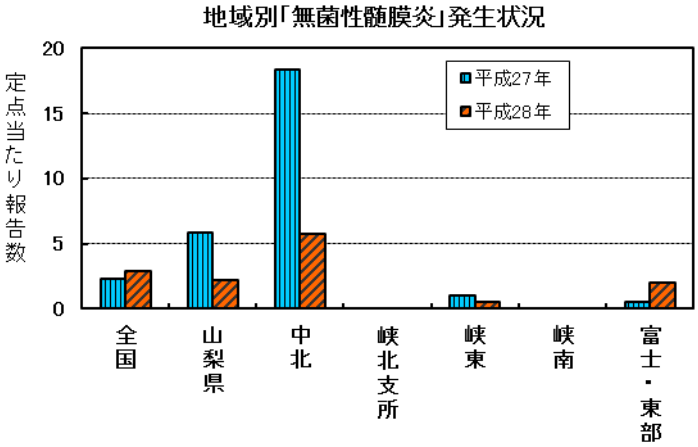
《週別発生状況》

年間を通して報告があったが、大きいピークはみられなかった。



《地域別発生状況》

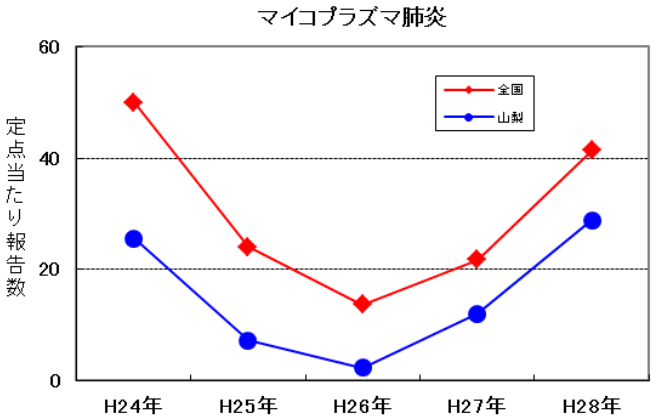
定点当たり報告数は中北保健所管内(5.7)が最も多かったが、前年よりも大幅に減少した。



○ マイコプラズマ肺炎

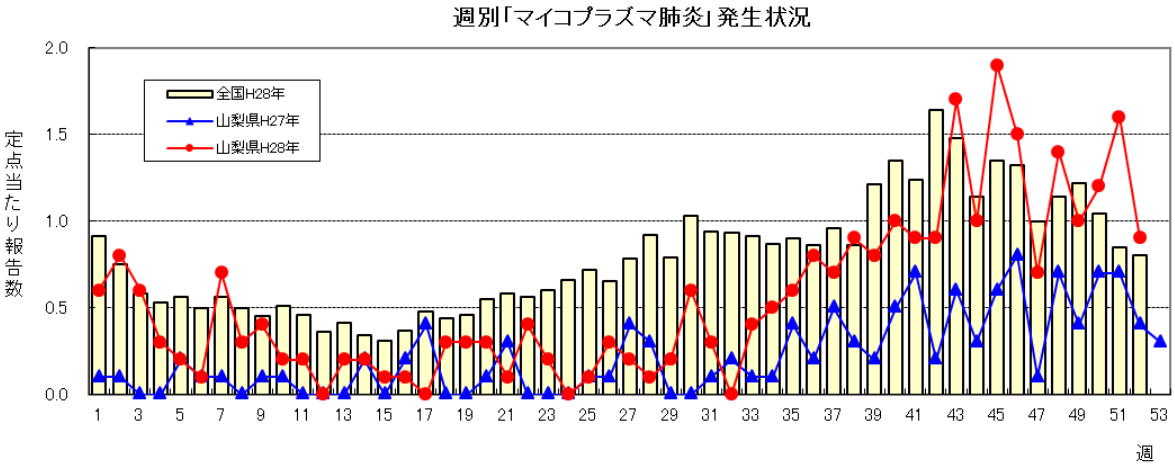
定点医療機関から 288 例（定点当たり報告数 28.8）の報告があり、前年（120 例）の約 2.4 倍に増加した。

最近 5 年間は全国よりも少ない報告数で、同様に推移している。



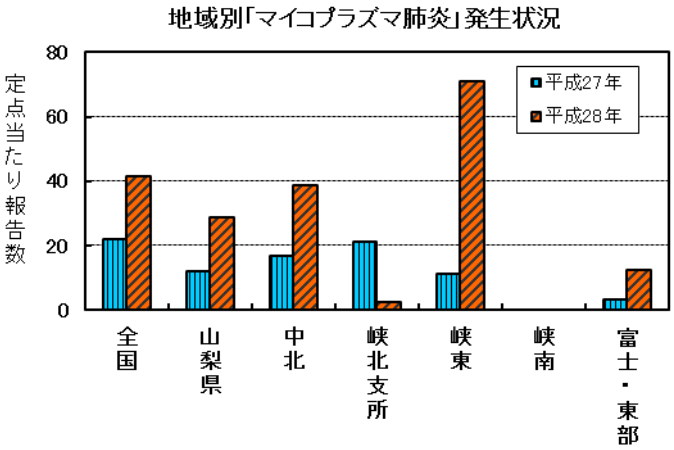
《週別発生状況》

年間を通して報告があったものの、第 33 週から報告数が増加傾向を示し、第 45 週(1.9)に最も報告数が多かった。



《地域別発生状況》

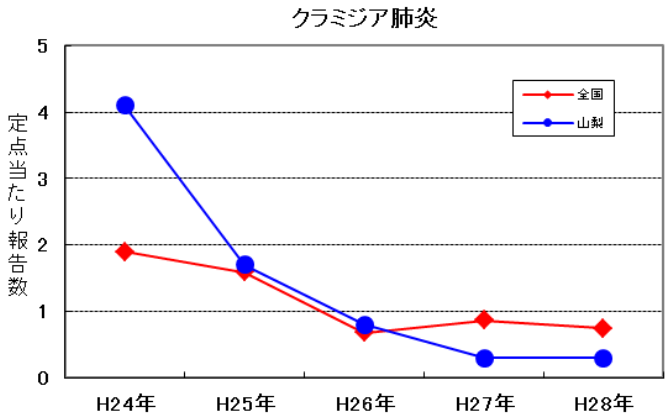
定点当たり報告数は峡東保健所管内(71.0)が最も多く、前年よりも大幅に増加した。中北保健所管内(38.7)、富士・東部保健所管内(12.5)でも増加したが、峡北支所管内(2.5)では減少した。前年と同様に峡南保健所管内では報告が無かった。



○ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

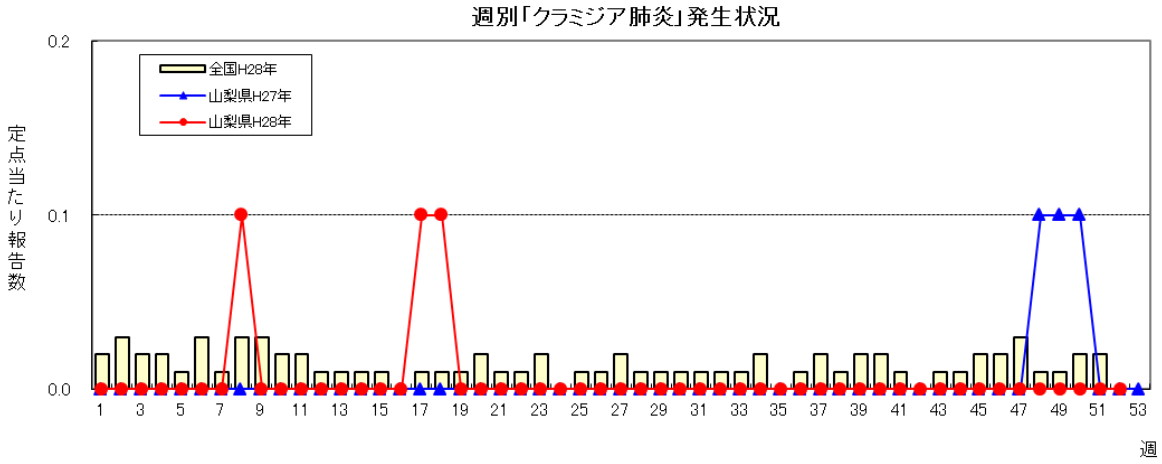
定点医療機関から 3 例（定点当たり報告数 0.3）の報告があり、前年と同数であった。

定点当たり報告数は減少傾向であり、前年から全国を下回っている。



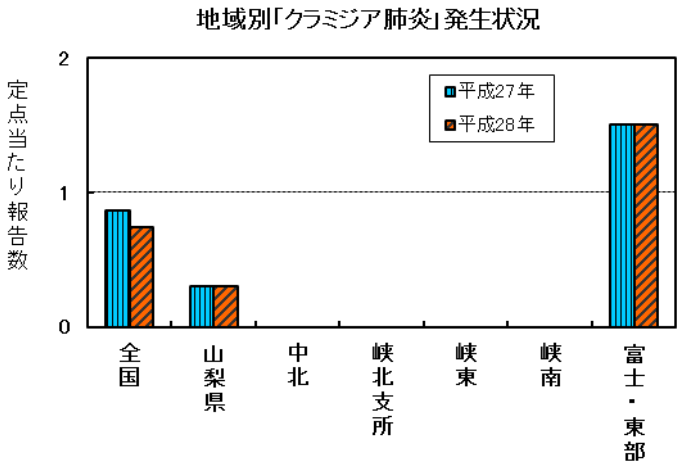
《週別発生状況》

第 8 週, 17 週, 18 週に各 1 例の報告があった。



《地域別発生状況》

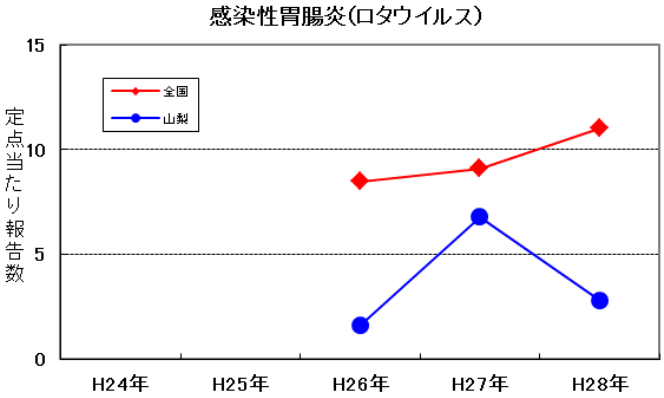
報告例は富士・東部保健所管内のみであった。



○感染性胃腸炎（ロタウイルス）

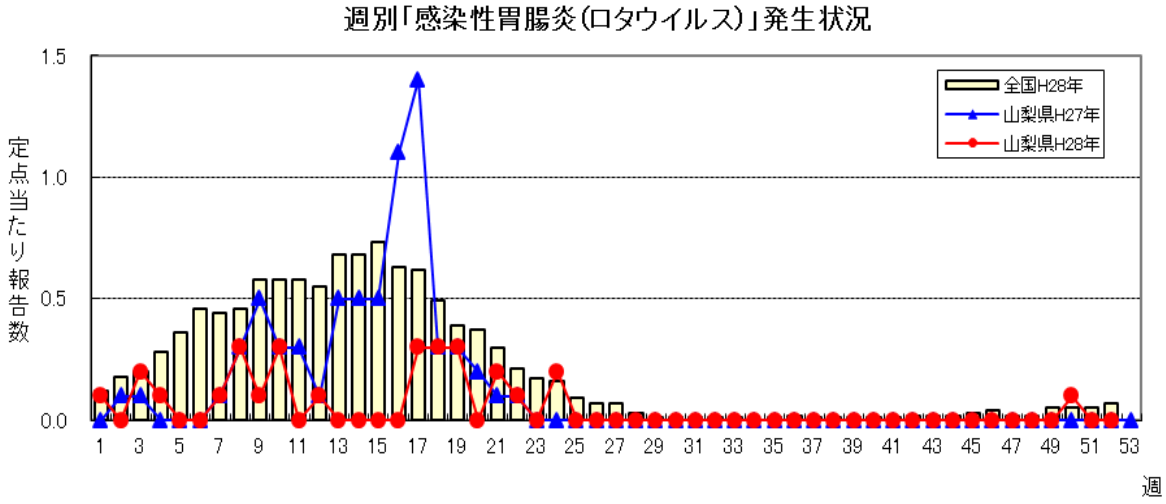
定点医療機関から 28 例（定点当たり報告数 2.8）の報告があり、前年（68 例）の約 41%に減少した。

本疾患は感染性胃腸炎のうち、病原体がロタウイルスであるものについて、平成 25 年 10 月 14 日より追加指定された疾患である。



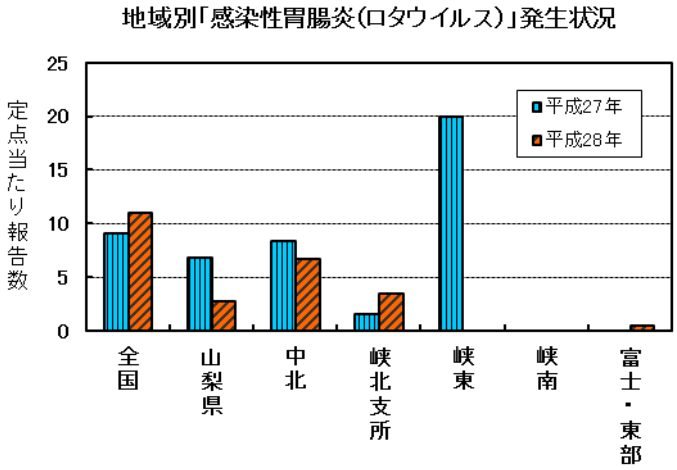
《週別発生状況》

報告は第 1 週～24 週に多く、全国とほぼ同様の状況であった。



《地域別発生状況》

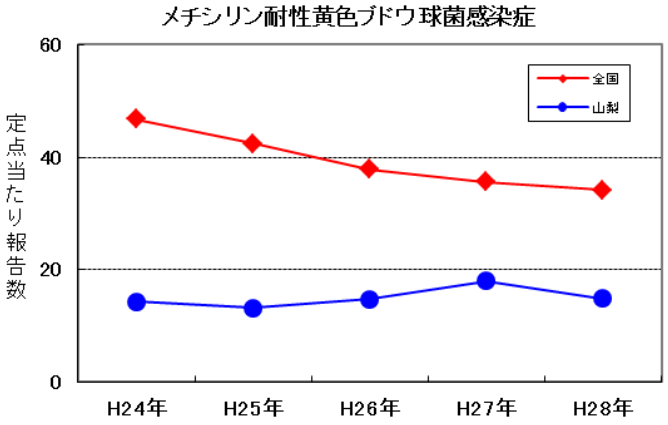
定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内(6.7)であった。前年に最も多かった峡東保健所管内は、本年は報告が無かった。



○ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

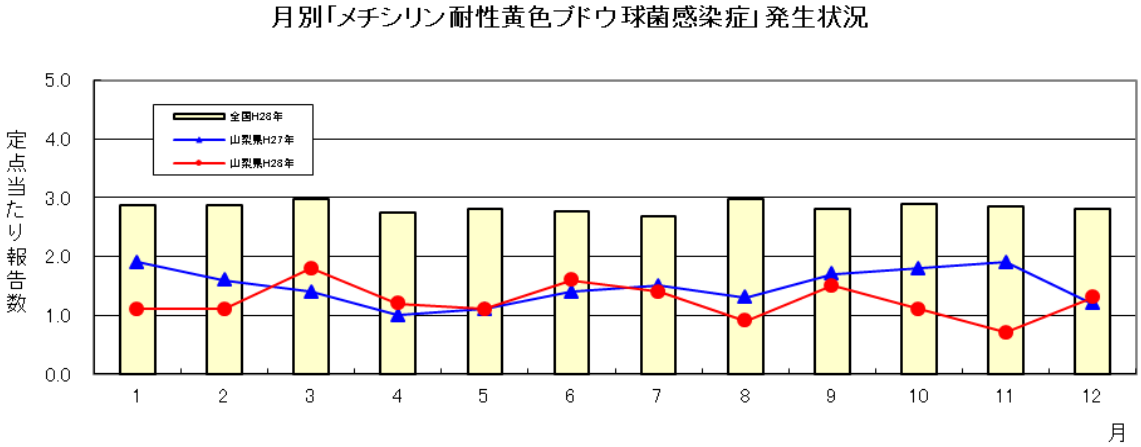
定点医療機関から 148 例（定点当たり報告数 14.8)の報告があり、前年（180 例）に比べて約 82%に減少した。

全国では減少傾向であるが、本県ではほぼ横ばいの推移である。



《月別発生状況》

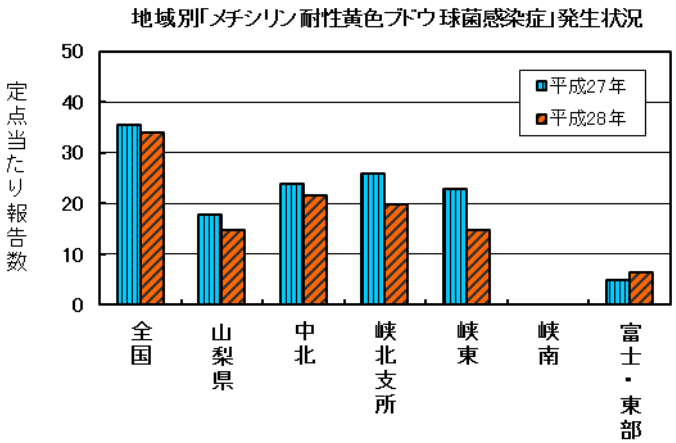
年間を通して報告があったが、全国よりも少ない報告数であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（21.7）であった。

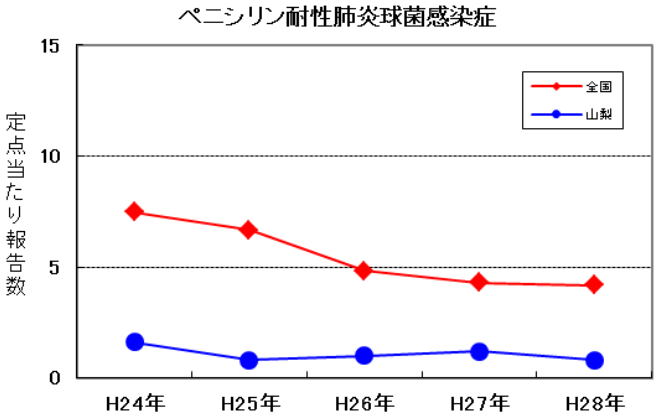
峡南保健所管内を除くすべての地域から報告があり、前年とほぼ同様の傾向であった。



○ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

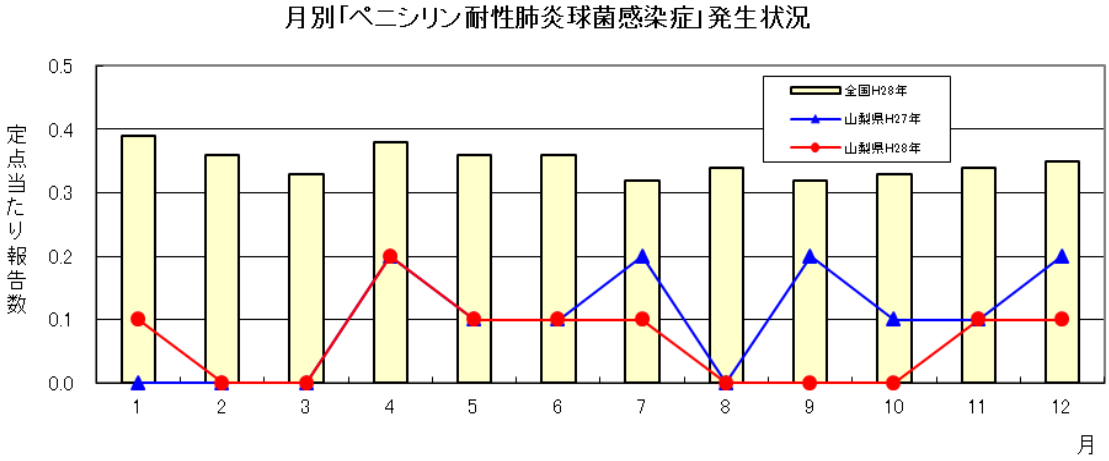
定点医療機関から 8 例（定点当たり報告数 0.8）の報告があり、前年（12 例）より 4 例減少した。

全国では減少傾向にあるが、本県ではほぼ横ばいの推移である。



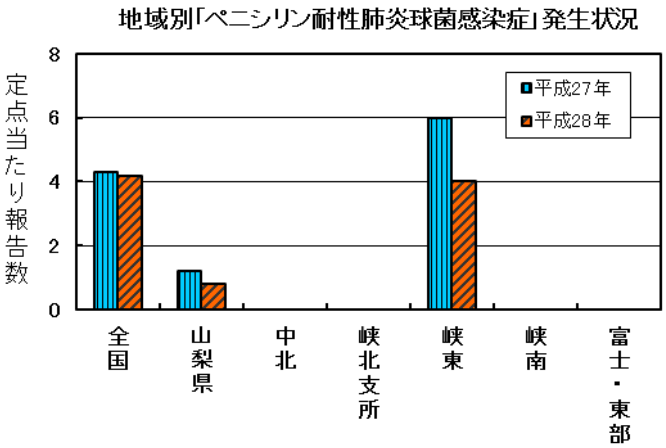
《月別発生状況》

1 月、5 月、6 月、7 月、11 月、12 月に各 1 例、4 月に 2 例の報告があった。



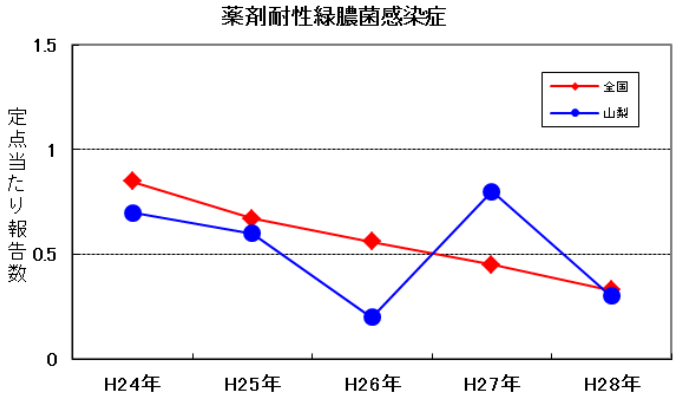
《地域別発生状況》

報告のあった 8 例は全て峡東保健所管内であり、前年と同様であった。



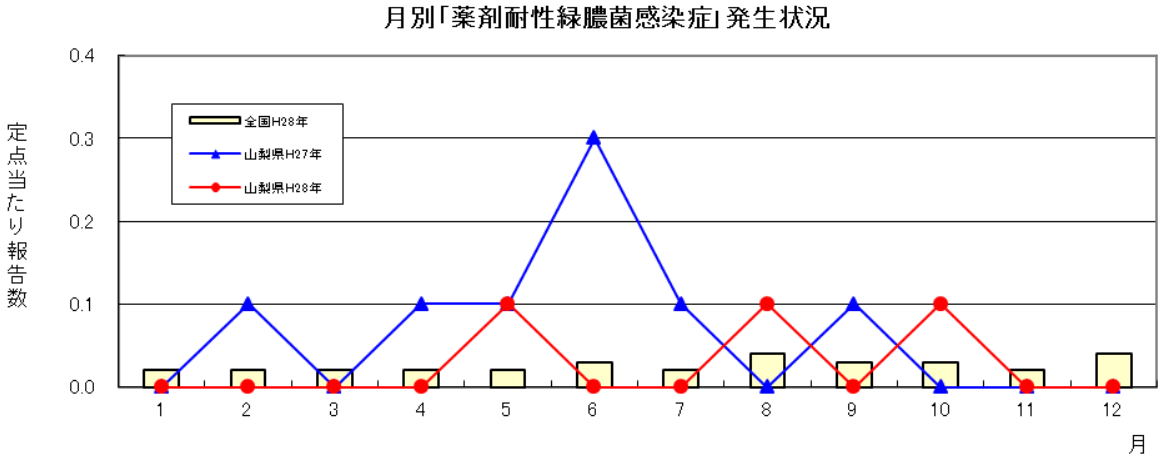
○ 薬剤耐性緑膿菌感染症

定点医療機関から 3 例（定点当たり報告数 0.3）の報告があり、前年（8 例）より 5 例減少した。
全国でも減少傾向である。



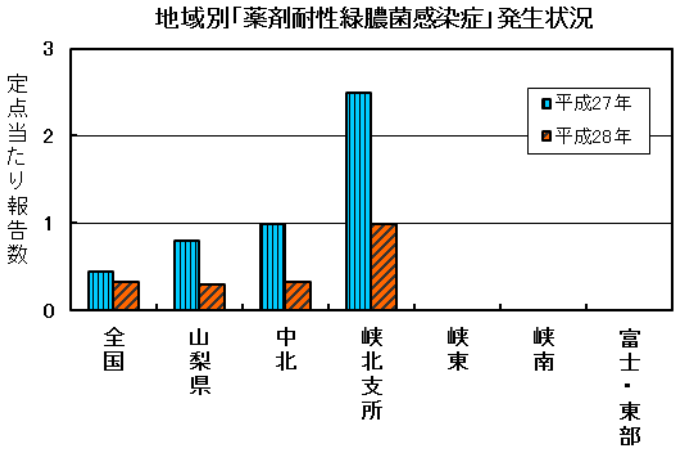
《月別発生状況》

5 月、8 月、10 月に各 1 例の報告があった。



《地域別発生状況》

前年と同様に中北保健所管内(0.3)、峡北支所管内(1.0)からの報告のみであったが、報告数は大幅に減少した。



Ⅲ　病原微生物検出状況

1　ウイルス検出状況

県内 19 箇所の病原体定点（医療機関）及び集団発生事例において採取された 1,221 検体について PCR 法と細胞分離法により検査を実施し、517 件（42.3%）のウイルスを検出した。

最も多く検出されたのはインフルエンザウイルス 235 件で全体の 45.5%を占め、次いでノロウイルスが 221 件（42.7%）であった。他に RS ウイルス 24 件（4.6%）、アデノウイルス 14 件（2.7%）、エンテロウイルス 7 件（1.4%）、ロタウイルス 5 件（1.0%）、水痘・帯状疱疹ウイルス 4 件（0.8%）、デングウイルス 3 件（0.6%）、ムンプスウイルス 2 件（0.4%）、風疹ウイルス、パルボウイルスがそれぞれ 1 件（0.2%）検出された。

インフルエンザウイルスの型別検出状況は、A(H1)pdm09 が 72 件（30.6%）、B 型山形系統が 56 件(23.8%)、B 型ビクトリア系統が 55 件(23.4%)、A(H3)香港型が 52 件(22.1%)であった。A(H1)pdm09 は 1 月及び 2 月に多く、B 型は 2 月から 4 月に特に多く検出された。患者報告数のピークとなった第 6～8 週（2 月上旬から下旬）は A(H1)pdm09 と B 型が流行の原因と推定された。また、A(H3)香港型が 11 月及び 12 月に多く検出されたことから、2016/2017 シーズン前半はこの型が流行の主流であると考えられる。

ノロウイルスの型別検出状況は、ノロウイルス GⅡが 216 件（97.7%）、ノロウイルス GⅠが 5 件（2.3%）で、1～3 月、11、12 月の冬期に多く検出された。集団発生事例から検出されたノロウイルスの遺伝子型別結果は別表のとおりであった。

平成 28 年 月別ウイルス検出状況

検出ウイルス		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
インフルエンザウイルス**	A(H1)pdm09	36	21	9	6	－	－	－	－	－	－	－	－	72
	A(H3)香港型	1	2	2	－	－	－	－	－	2	－	20	25	52
	B型ﾋﾞｸﾄﾘｱ系統	11	16	20	8	－	－	－	－	－	－	－	－	55
	B型山形系統	－	8	17	27	2	1	－	－	－	－	－	1	56
エンテロウイルス*	エコーウイルス3型	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	1
	コクサッキーウイルスB1型	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1
	コクサッキーウイルスB5型	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	2
	コクサッキーウイルスA16型	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1
	型別不能	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	2
アデノウイルス*	1型	－	－	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	2
	2型	－	－	－	－	－	2	－	1	－	－	－	－	3
	5型	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1
	型別不能	1	－	－	－	－	－	2	－	2	－	3	－	8
水痘・帯状疱疹ウイルス*		－	－	－	2	－	－	1	－	1	－	－	－	4
パルボウイルス B19*		－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1
風しんウイルス*		－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1
RSウイルス*	サブクラスB	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	6	3	9
	型別不能	－	－	－	－	－	－	－	－	2	7	5	1	15
ムンプスウイルス*	G型	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	2
デングウイルス*	1型	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	4型	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	2
ノロウイルス**	GⅠ	4	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5
	GⅡ	38	15	2	－	－	3	－	－	－	－	27	131	216
ロタウイルス*		－	5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5
計		91	67	52	45	3	12	5	3	7	7	64	161	517

*PCR法で遺伝子検出　**リアルタイムPCR法で遺伝子検出
ノロウイルス、インフルエンザウイルスについては集団発生を含む

平成 28 年 集団発生事例におけるノロウイルス遺伝子型別結果

検出月	事例数	遺伝子型
1月	4	GⅡ.4　2012変異株
	1	GⅠ.2　GⅡ.4　2012変異株
	1	GⅡ.17
	1	GⅡ.3
2月	1	GⅡ.3
	1	GⅡ.1
	1	GⅡ.17
3月	1	GⅠ型別不能　GⅡ.17
	1	GⅡ.17
4月	1	GⅡ.17
6月	1	GⅡ.3
11月	1	GⅡ.3
	1	GⅡ.4　2006変異株
	2	GⅡ.2
12月	1	GⅡ.6　GⅡ.17
	20	GⅡ.2

２　細菌検出状況

三～四類感染症の患者から分離された菌株について、同定試験、血清型及び毒素型検査を実施したところ、次のとおりであった。

月　日	検　出　菌	検出数
6.23	EHEC O157:HNM（stx1,2）	1
7.1	EHEC O157:H7（stx1,2）	1
7.2	EHEC O157:H7（stx1,2）	1
7.4	EHEC O157:H7（stx1,2）	3
7.12	EHEC O157:H7（stx1,2）	1
8.24	EHEC O157:H7（stx1,2）	1
9.27	*V.cholerae* O1 彦島 eltor	1※
9.29	*L.pneumophila* SG1	1
11.7	*S.*Paratyphi A	2※
12.19	*L.pneumophila* SG1	1
	計	13

EHEC：腸管出血性大腸菌
HNM ：非運動性
※　：海外渡航者

Ⅳ　参考資料

1　感染症発生動向調査の指定届出機関一覧

平成28年6月1日現在

	患者定点							病原体定点				医療機関名称	医療機関の長（管理者）	主たる診療科	郵便番号	住　所	電話番号
	小	内	イ	眼	S	基	疑	イ指	小	眼	基						
中北	○		○				○		○			隈部小児科医院	隈部　桂子	小	400-0855	甲府市中小河原1-14-3	055-243-0510
	○		○				○		○			今井小児科	今井　秀人	小	400-0854	甲府市中小河原町1589	055-241-5636
	○		○				○	○				小松小児科医院	小松　史俊	小	400-0062	甲府市池田1-11-7	055-251-6776
	○		○				○					里吉内科クリニック	佐々木勝弥	内	400-0822	甲府市里吉4-15-17	055-227-0028
	○		○				○					内科小児科横田医院	原　　理	小	400-0041	甲府市上石田2-30-44	055-222-8710
	○		○				○					中島医院	中島　達人	小	400-0105	甲斐市下今井88-1	0551-28-2181
	○		○				○					森川医院	森川　一弘	小	409-3863	中巨摩郡昭和町河東中島1903	055-275-2070
	○		○				○					西野内科医院	西野　義久	小	409-3845	中央市山之神2389-1	055-273-6656
		○	○				○					竹居医院	斉藤真知子	内	400-0007	甲府市美咲1-11-15	055-252-3908
		○	○				○					桜林内科消化器科医院	桜林　　忍	内	400-0058	甲府市宮原町1336-1	055-241-2619
		○	○				○					内科小児科小野医院	小野　隆彦	内	400-0065	甲府市貢川2-2-11	055-228-8822
		○	○				○					竜王共立診療所	城所　佑吉	内	400-0113	甲斐市富竹新田231-1	055-279-8611
		○	○				○					大沢医院	大澤　秀樹	内	400-0125	甲斐市長塚115-11	055-277-1020
		○	○				○					井上内科小児科医院	井上　利男	内	400-0025	甲府市朝日1-4-12	055-251-7700
				○						○		佐々木眼科医院	佐々木隆弥	眼	400-0031	甲府市丸の内2-25-8	055-222-3222
				○								二宮眼科医院	二宮　守弘	眼	400-0008	甲府市緑が丘1-5-14	055-252-1003
				○								フルヤ眼科医院	古屋　和子	眼	409-3841	中央市布施1990ｳｨﾙﾋﾟｱ1F	055-273-0660
					○							杉田産婦人科医院	杉田　茂仁	産・婦	400-0046	甲府市下石田2-7-17	055-228-8333
					○							鈴木泌尿器科医院	内山　俊介	泌	400-0026	甲府市塩部1-11-12	055-251-7811
					○							竜王レディースクリニック	森澤　孝行	産・婦	400-0115	甲斐市篠原2199	055-279-4132
						○	○				○	市立甲府病院	小澤　克良	他	400-0832	甲府市増坪町366	055-244-1111
						○	○				○	地方独立行政法人山梨県病院機構山梨県立中央病院	土屋　幸治	他	400-8506	甲府市富士見1-1-1	055-253-7111
						○	○				○	山梨大学医学部附属病院	藤井　秀樹	他	409-3898	中央市下河東1110	055-273-1111
							○					古屋クリニック	古屋　秀夫	内	409-3845	中央市山之神1533-21	055-274-3773
	8	6	14	3	3	3	18	1	2	1	3						
峡北支所	○		○				○	○				三井医院	三井　丈夫	小	407-0024	韮崎市本町1-11-8	0551-22-0845
	○		○				○					にこにこクリニック　こでら小児科	小寺　浩司	小	407-0033	韮崎市龍岡町下條南割1045	0551-23-6677
	○		○				○					高畑内科小児科医院	高畑　賢司	小	400-0422	南ｱﾙﾌﾟｽ市飯野2753	055-283-2955
	○		○				○					小池医院	小池　　順	小	407-0024	南ｱﾙﾌﾟｽ市小笠原1717	055-282-0304
	○		○				○					いいづかこどもクリニック	飯塚恵美子	小	408-0034	北杜市長坂町大八田3874-1	0551-45-7600
		○	○				○					北杜市立白州診療所	武田　盛夫	内	408-0315	北杜市白州町白須1341	0551-35-2009
		○	○				○					本町クリニック	橋本　辰彦	内	407-0024	韮崎市本町2-19-3	0551-22-8741
		○	○				○					志村内科医院	志村　政文	内	400-0422	南ｱﾙﾌﾟｽ市荊沢410	055-282-3646
				○								千野眼科医院	千野　　一	眼	407-0024	韮崎市本町1-5-26	0551-22-0038
				○								堀内眼科	堀内　二彦	眼	400-0306	南ｱﾙﾌﾟｽ市小笠原386	055-282-0229
					○							まえざわクリニック	前澤　浩明	泌	407-0015	韮崎市若宮2-14-1	0551-21-2333
					○							女性クリニック秋山医院	秋山　尚美	眼	400-0221	南ｱﾙﾌﾟｽ市在家塚155	055-281-2017
						○	○				○	巨摩共立病院	深沢　眞吾	他	400-0398	南ｱﾙﾌﾟｽ市桃園340	055-283-3131
						○	○				○	北杜市立甲陽病院	飯塚　秀彦	他	408-0034	北杜市長坂町大八田3954	0551-32-3221
	5	3	8	2	2	2	10	1	0	0	2						

	患者定点							病原体定点				医療機関名称	医療機関の長（管理者）	主たる診療科	郵便番号	住　所	電話番号
	小	内	イ	眼	S	基	疑	イ指	小	眼	基						
峡東	○		○				○					篠原医院	篠原　文雄	内・小	406-0805	笛吹市御坂町栗合168	055-262-3006
	○		○				○					三枝クリニック	三枝　芳樹	内・小	406-0043	笛吹市石和町河内37-2	055-261-2555
	○		○				○					あめみや医院	雨宮　秀樹	内・小	404-0046	甲州市塩山上井尻1419	0553-32-5511
	○		○				○	○				池田内科小児科医院	池田　康子	内・小	409-1300	甲州市勝沼町勝沼2961	0553-44-0613
		○	○				○					中央内科クリニック	横森　宣彦	内	405-0018	山梨市上神内川47	0553-22-1008
		○	○				○					飯島医院	飯島　昭彦	内	405-0006	山梨市小原西5	0553-22-0015
		○	○				○					黒沢内科	黒沢　明彦	内	406-0031	笛吹市石和町市部716-5	055-263-3400
				○								古川眼科医院	古川　明博	眼	405-0006	山梨市小原西196-2	0553-22-0159
				○								古屋眼科	古屋　　徹	眼	406-0031	笛吹市石和町市部822-41	055-262-1233
					○							加納岩総合病院	中澤　良英	他	405-0018	山梨市上神内川1309	0553-22-2511
					○							長坂クリニック	長坂　正仁	産・婦	406-0033	笛吹市石和町小石和2645	055-262-1103
						○	○				○	山梨厚生病院	千葉　成宏	他	405-0033	山梨市落合860	0553-23-1311
						○	○				○	甲州リハビリテーション病院	市瀬　祐一	他	406-0032	笛吹市石和町四日市場2031	055-262-3121
	4	3	7	2	2	2	9	1	0	0	2						
峡南	○		○				○	○				溝部医院	溝部　政史	内	409-3600	西八代郡市川三郷町市川大門1235	055-272-0003
	○		○				○					南部町国民健康保険診療所	市川　万邦	内	409-2212	南巨摩郡南部町南部8050	05566-4-3117
		○	○				○					身延町早川町国民健康保険病院一部事務組合立飯富病院	朝比奈利明	他	409-3423	南巨摩郡身延町飯富1628	0556-42-2322
						○	○				○	峡南医療センター企業団富士川病院	小林　正史	他	400-0601	南巨摩郡富士川町鰍沢340-1	0556-22-3135
	2	1	3	0	0	1	4	1	0	0	1						
富士・東部	○		○				○	○				吉田医院	刑部　利雄	小	403-0005	富士吉田市中曽根1-5-10	0555-22-0142
	○		○				○		○			武井クリニック	武井　治郎	小	402-0025	都留市法能669	0554-45-6811
	○		○				○					都留市立病院	保坂　　稔	他	402-0056	都留市つる5-1-55	0554-45-1811
	○		○				○					つゆきこどもクリニック	露木　和光	小	403-0004	富士吉田市下吉田8-18-29	0555-24-8300
	○		○				○					いしはらクリニック	石原　俊秀	小	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津584-1	0555-72-5666
		○	○				○					堀田医院	堀田ふつみ	内	401-0013	大月市大月1-5-20	0554-22-0113
		○	○				○					うえのクリニック	上野　雄大	内	409-0126	上野原市ｺﾓｱしおつ3-22-5	0554-66-3690
		○	○				○					しまだ医院	小田切理純	内	403-0022	南都留郡西桂町小沼1710-1	0555-25-2388
		○	○				○					富士ニコニコクリニック	渡邊善一郎	内	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津1287	0555-72-3370
				○								小林眼科医院	小林　　寛	眼	403-0017	富士吉田市新西原1-7-1	0555-24-1166
				○								野村眼科医院	野村　道子	眼	402-0005	都留市四日市場8-6	0554-20-8070
					○							武者医院	武者　吉英	産・婦	401-0013	大月市大月1-15-18	0554-23-1166
					○							渡辺医院	渡辺　泰猛	産・婦	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津1496	0555-72-2835
						○	○				○	富士吉田市立病院	樫本　　温	他	403-0005	富士吉田市上吉田6530	0555-22-4111
						○	○				○	大月市立中央病院	新田　澄郎	他	401-0015	大月市大月町花咲1225	0554-22-1251
	5	4	9	2	2	2	11	1	1	0	2						
合計	24	17	41	9	9	10	52	5	3	1	10						

【患者定点】
- 小：小児科定点
- 内：内科定点
- イ：インフルエンザ定点
- 眼：眼科定点
- S：性感染症定点
- 基：基幹定点の病院
- 疑：疑似症定点

【病原体定点】
- イ指：インフルエンザ病原体定点（指定提出機関）
- 小：小児科病原体定点
- 基：基幹病原体定点
- 眼：眼科病原体定点

2　全数把握対象感染症の報告数

疾　病	報告数 全国	報告数 山梨
1類感染症		
エボラ出血熱	-	-
クリミア・コンゴ出血熱	-	-
痘そう	-	-
南米出血熱*1	-	-
ペスト	-	-
マールブルグ病	-	-
ラッサ熱	-	-
2類感染症		
急性灰白髄炎	-	-
結核*1	24,662	103
ジフテリア	-	-
重症急性呼吸器症候群*2*3 （SARSコロナウイルスに限る）	-	-
中東呼吸器候群*12 （MERSコロナウイルスに限る）	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1)*5	-	-
鳥インフルエンザ(H7N9)*12	-	-
3類感染症		
コレラ*2	10	1
細菌性赤痢*2	121	-
腸管出血性大腸菌感染症	3,645	9
腸チフス*2	52	-
パラチフス*2	20	1
4類感染症		
E型肝炎	356	1
ウエストナイル熱 （ウエストナイル脳炎を含む）	-	-
A型肝炎	271	-
エキノコックス症	22	-
黄熱	-	-
オウム病	6	-
オムスク出血熱*1	-	-
回帰熱	7	-
キャサヌル森林病*1	-	-
Q熱	-	-
狂犬病	-	-
コクシジオイデス症	3	-
サル痘	-	-
ジカウイルス感染症*13	-	-
重症熱性血小板減少症候群*7 （SFTSウイルスに限る）	60	-
腎症候性出血熱	-	-
西部ウマ脳炎*1	-	-
ダニ媒介脳炎*1	1	-
炭疽	-	-
チクングニア熱*6	13	-
つつが虫病	505	2
デング熱	339	3
東部ウマ脳炎*1	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)*10	-	-

疾　病	報告数 全国	報告数 山梨
ニパウイルス感染症	-	-
日本紅斑熱	276	-
日本脳炎	11	1
ハンタウイルス肺症候群	-	-
Bウイルス病	-	-
鼻疽*1	-	-
ブルセラ症	2	-
ベネズエラウマ脳炎*1	-	-
ヘンドラウイルス感染症*1	-	-
発しんチフス	-	-
ボツリヌス症	5	-
マラリア	54	1
野兎病	-	-
ライム病	8	-
リッサウイルス感染症	-	-
リフトバレー熱*1	-	-
類鼻疽*1	-	-
レジオネラ症	1,602	10
レプトスピラ症	76	-
ロッキー山紅斑熱*1	-	-
5類感染症		
アメーバ赤痢	1,150	6
ウイルス性肝炎（E型肝炎 及びA型肝炎を除く）	276	1
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症*11	1,570	8
急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)*3	764	-
クリプトスポリジウム症	14	-
クロイツフェルト・ヤコブ病	175	2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	497	2
後天性免疫不全症候群	1,442	8
ジアルジア症	71	-
侵襲性インフルエンザ菌感染症*8	312	1
侵襲性髄膜炎菌感染症*8	43	-
侵襲性肺炎球菌感染症*8	2,736	10
水痘（入院例）*11	318	7
先天性風しん症候群	-	-
梅毒	4,559	8
播種性クリプトコックス症*11	137	-
破傷風	129	-
バンコマイシン耐性黄色ブドウ　球菌感染症	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌　感染症	63	-
風しん*4	126	1
麻しん*4	165	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症*11	33	-
新型インフルエンザ等感染症*5		
新型インフルエンザ	-	-
再興型インフルエンザ	-	-

２－１　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の改正に伴う変更の経緯

平成19年4月1日　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律改正に伴う変更点

*1：新規追加された疾病　*2：類型変更された疾病　*3：名称変更された疾病

平成20年1月1日　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則改正に伴う変更点

*4：定点把握から全数把握に変更された疾病

平成20年5月12日　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則改正に伴う変更点

*5：新規追加された疾病

平成23年2月1日　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

*6：新規追加された疾病

平成25年3月4日　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

*7：新規追加された疾病

平成25年4月1日　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

*8：新規追加された疾病

平成25年5月6日　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

*9：新規追加された疾病　*10 名称変更された疾病

平成26年9月19日　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

*11：新規追加された疾病

平成26年11月21日　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療関する法律一部改正に伴う変更点

*12：類型変更された疾病（※施行は平成27年1月21日）

平成28年3月30日　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

*13：新規追加された疾病

3　定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数（平成 28 年）

疾　　病	全　国		山 梨 県	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
RSウイルス感染症	104,703	33.18	571	23.79
咽頭結膜熱	67,487	21.38	432	18.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	367,815	116.54	2,712	113.00
感染性胃腸炎	1,116,800	353.87	7,071	294.63
水 痘	65,383	20.72	359	14.96
手足口病	69,139	21.91	548	22.83
伝染性紅斑	51,419	16.29	545	22.71
突発性発しん	76,271	24.17	385	16.04
百日咳	3,011	0.95	27	1.13
ヘルパンギーナ	129,371	40.99	1,107	46.13
流行性耳下腺炎	159,031	50.39	596	24.83
小児科定点(週報)　計	2,210,430	700.39	14,353	598.05
インフルエンザ	1,751,968	354.58	14,572	355.41
インフルエンザ定点(週報)　計	1,751,968	354.58	14,572	355.41
急性出血性結膜炎	401	0.58	3	0.33
流行性角結膜炎	26,099	37.72	177	19.67
眼科定点 (週報)　計	26,500	38.30	180	20.00
性器クラミジア感染症	24,396	24.77	164	18.22
性器ヘルペスウイルス感染症	9,174	9.31	84	9.33
尖圭コンジローマ	5,730	5.82	19	2.11
淋菌感染症	8,298	8.42	26	2.89
STD定点 (月報)　計	47,598	48.32	293	32.55
細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因とした場合を除く）	493	1.03	6	0.60
無菌性髄膜炎	1,379	2.89	22	2.20
マイコプラズマ肺炎	19,721	41.34	288	28.80
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	354	0.74	3	0.30
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	5,266	11.04	28	2.80
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16,332	34.10	148	14.80
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2,000	4.18	8	0.80
薬剤耐性緑膿菌感染症	157	0.33	3	0.30
基幹定点 (週報、月報)　計	45,702	95.65	506	50.60

4　平成 27 年と 28 年の定点当たり報告数の比較

疾　　病	全国			山梨			山梨/全国	
	H27年 2015・A	H28年 2016・B	B/A	H27年 2015・C	H28年 2016・D	D/C	H27年 C/A	H28年 D/B
RSウイルス感染症	38.16	33.18	0.87	22.67	23.79	1.05	0.59	0.72
咽頭結膜熱	22.93	21.38	0.93	8.17	18.00	2.20	0.36	0.84
Ａ群溶血性連鎖球菌咽頭炎	127.55	116.54	0.91	117.79	113.00	0.96	0.92	0.97
感染性胃腸炎	314.02	353.87	1.13	251.08	294.63	1.17	0.80	0.83
水痘	24.67	20.72	0.84	14.92	14.96	1.00	0.60	0.72
手足口病	121.34	21.91	0.18	73.58	22.83	0.31	0.61	1.04
伝染性紅斑	31.32	16.29	0.52	30.50	22.71	0.74	0.97	1.39
突発性発しん	27.00	24.17	0.90	17.54	16.04	0.91	0.65	0.66
百日咳	0.85	0.95	1.12	0.17	1.13	6.65	0.20	1.19
ヘルパンギーナ	31.22	40.99	1.31	39.58	46.13	1.17	1.27	1.13
流行性耳下腺炎	25.76	50.39	1.96	3.96	24.83	6.27	0.15	0.49
小児科定点　計	764.82	700.39	0.92	579.96	598.05	1.03	0.76	0.85
インフルエンザ	237.42	354.58	1.49	220.13	355.41	1.61	0.93	1.00
インフルエンザ定点　計	237.42	354.58	1.49	220.13	355.41	1.61	0.93	1.00
急性出血性結膜炎	0.72	0.58	0.81	0.11	0.33	3.00	0.15	0.57
流行性角結膜炎	36.44	37.72	1.04	21.78	19.67	0.90	0.60	0.52
眼科定点　計	37.16	38.30	1.03	21.89	20.00	0.91	0.59	0.52
性器クラミジア感染症	24.95	24.77	0.99	13.89	18.22	1.31	0.56	0.74
性器ヘルペスウイルス感染症	9.16	9.31	1.02	9.78	9.33	0.95	1.07	1.00
尖圭コンジローム	5.92	5.82	0.98	2.44	2.11	0.86	0.41	0.36
淋菌感染症	8.88	8.42	0.95	1.89	2.89	1.53	0.21	0.34
STD定点　計	48.91	48.32	0.99	28.00	32.55	1.16	0.57	0.67
細菌性髄膜炎	0.95	1.03	1.08	0.70	0.60	0.86	0.74	0.58
無菌性髄膜炎	2.24	2.89	1.29	5.80	2.20	0.38	2.59	0.76
マイコプラズマ肺炎	21.73	41.34	1.90	12.00	28.80	2.40	0.55	0.70
クラミジア肺炎（オウム病は除く）	0.86	0.74	0.86	0.30	0.30	1.00	0.35	0.41
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	9.12	11.04	1.21	6.80	2.80	0.41	0.75	0.25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	35.61	34.10	0.96	18.00	14.80	0.82	0.51	0.43
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4.29	4.18	0.97	1.20	0.80	0.67	0.28	0.19
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.45	0.33	0.73	0.80	0.30	0.38	1.78	0.91
基幹定点　計	75.25	95.65	1.27	45.60	50.60	1.11	0.61	0.53

５　定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移（平成 24 年～28 年）

疾　　病	全国					山梨県				
	H24年 2012	H25年 2013	H26年 2014	H27年 2015	H28年 2016	H24年 2012	H25年 2013	H26年 2014	H27年 2015	H28年 2016
RSウイルス感染症	31.18	30.72	31.93	38.16	33.18	7.79	13.17	14.88	22.67	23.79
咽頭結膜熱	17.00	23.22	25.12	22.93	21.38	9.29	7.67	17.33	8.17	18.00
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	88.18	80.83	96.78	127.55	116.54	97.79	68.38	66.88	117.79	113.00
感染性胃腸炎	391.66	340.93	319.68	314.02	353.87	365.33	308.92	264.17	251.08	294.63
水痘	62.27	55.70	50.15	24.67	20.72	38.46	33.75	24.50	14.92	14.96
手足口病	23.17	96.54	26.62	121.34	21.91	10.21	127.25	9.96	73.58	22.83
伝染性紅斑	6.67	3.22	10.29	31.32	16.29	2.92	1.25	1.50	30.50	22.71
突発性発しん	29.34	28.47	27.99	27.00	24.17	17.67	18.79	17.42	17.54	16.04
百日咳	1.30	0.53	0.66	0.85	0.95	0.29	0.38	0.25	0.17	1.13
ヘルパンギーナ	36.45	30.16	43.59	31.22	40.99	11.29	11.67	46.38	39.58	46.13
流行性耳下腺炎	22.76	13.05	14.74	25.76	50.39	26.67	5.67	4.17	3.96	24.83
小児科定点　計	709.98	703.37	647.55	764.82	700.39	587.71	596.90	467.44	579.96	598.05
インフルエンザ	341.14	237.20	354.44	237.42	354.58	274.30	242.98	294.25	220.13	355.41
インフルエンザ定点　計	341.14	237.20	354.44	237.42	354.58	274.30	242.98	294.25	220.13	355.41
急性出血性結膜炎	0.70	0.98	0.61	0.72	0.58	0.00	0.56	0.22	0.11	0.33
流行性角結膜炎	28.94	30.26	29.62	36.44	37.72	17.22	11.11	18.78	21.78	19.67
眼科定点　計	29.64	31.24	30.23	37.16	38.30	17.22	11.67	19.00	21.89	20.00
性器クラミジア感染症	25.26	26.29	25.60	24.95	24.77	17.56	16.22	12.44	13.89	18.22
性器ヘルペスウイルス感染症	8.89	9.01	8.87	9.16	9.31	6.78	8.22	10.11	9.78	9.33
尖圭コンジローム	5.63	5.90	5.83	5.92	5.82	2.33	1.67	2.56	2.44	2.11
淋菌感染症	9.52	9.74	10.06	8.88	8.42	1.33	2.22	1.00	1.89	2.89
STD定点　計	49.30	50.94	50.36	48.91	48.32	28.00	28.33	26.11	28.00	32.55
細菌性髄膜炎	1.01	0.95	0.83	0.95	1.03	0.10	0.40	0.20	0.70	0.60
無菌性髄膜炎	1.98	2.75	1.90	2.24	2.89	0.60	0.10	0.30	5.80	2.20
マイコプラズマ肺炎	49.99	24.07	13.63	21.73	41.34	25.60	7.20	2.30	12.00	28.80
クラミジア肺炎（オウム病は除く）	1.90	1.59	0.68	0.86	0.74	4.10	1.70	0.80	0.30	0.30
感染性胃腸炎（ロタウイルス）			8.48	9.12	11.04			1.60	6.80	2.80
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	46.74	42.43	37.82	35.61	34.10	14.30	13.20	14.70	18.00	14.80
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	7.48	6.65	4.81	4.29	4.18	1.60	0.80	1.00	1.20	0.80
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.85	0.67	0.56	0.45	0.33	0.70	0.60	0.20	0.80	0.30
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0.01	0.02	0.01			0.00	0.00	0.00		
基幹定点　計	109.96	79.13	68.72	75.25	95.65	47.00	24.00	21.10	45.60	50.60

６　感染症発生動向調査の調査報告週対応表

週	調査週間	週	調査週間	週	調査週間
1	1/4 ～ 1/10	19	5/9 ～ 5/15	37	9/12 ～ 9/18
2	1/11 ～ 1/17	20	5/16 ～ 5/22	38	9/19 ～ 9/25
3	1/18 ～ 1/24	21	5/23 ～ 5/29	39	9/26 ～ 10/2
4	1/25 ～ 1/31	22	5/30 ～ 6/5	40	10/3 ～ 10/9
5	2/1 ～ 2/7	23	6/6 ～ 6/12	41	10/10 ～ 10/16
6	2/8 ～ 2/14	24	6/13 ～ 6/19	42	10/17 ～ 10/23
7	2/15 ～ 2/21	25	6/20 ～ 6/26	43	10/24 ～ 10/30
8	2/22 ～ 2/28	26	6/27 ～ 7/3	44	10/31 ～ 11/6
9	2/29 ～ 3/6	27	7/4 ～ 7/10	45	11/7 ～ 11/13
10	3/7 ～ 3/13	28	7/11 ～ 7/17	46	11/14 ～ 11/20
11	3/14 ～ 3/20	29	7/18 ～ 7/24	47	11/21 ～ 11/27
12	3/21 ～ 3/27	30	7/25 ～ 7/31	48	11/28 ～ 12/4
13	3/28 ～ 4/3	31	8/1 ～ 8/7	49	12/5 ～ 12/11
14	4/4 ～ 4/10	32	8/8 ～ 8/14	50	12/12 ～ 12/18
15	4/11 ～ 4/17	33	8/15 ～ 8/21	51	12/19 ～ 12/25
16	4/18 ～ 4/24	34	8/22 ～ 8/28	52	12/26 ～ 1/1
17	4/25 ～ 5/1	35	8/29 ～ 9/4		
18	5/2 ～ 5/8	36	9/5 ～ 9/11		

感染症発生動向調査事業報告書
—平成 28 年版—

平成 29 年 9 月　発行

編集・発行　　山梨県感染症情報センター
（山梨県衛生環境研究所）
〒400-0027　　山梨県甲府市富士見 1-7-31
電話　055-253-6721
FAX　055-253-5637
E-mail　eikanken@pref.yamanashi.lg.jp
http:/www.pref.yamanashi.jp/eikanken/kansensyosenta.html